2020 年度SDGs未来都市等提案書（提案様式1）

令和2年2月28日

妙高市長　入 村　明

提案全体のタイトル	人、自然、全ての生命が輝くまち「生命地域　妙高」の創造
提案者	妙高市長　入村　明
担当者・連絡先	[redacted]

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

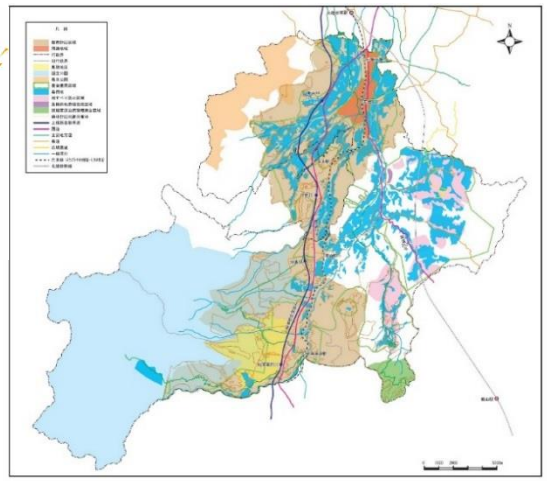
（1）地域の実態

（地域特性）

① 地理的条件

妙高市は、新潟県の南西部に位置し、上越市、糸魚川市、長野県の飯山市、長野市、北安曇郡小谷村、上水内郡信濃町に接しており、三方を山に囲まれた、日本でも有数の豪雪地帯である。日本百名山の秀峰妙高山をはじめ、火打山、斑尾山などの裾野は、広大な妙高山麓の高原丘陵地帯を形成し、妙高山麓一帯（市域分約 16,167ha）は、妙高戸隠連山国立公園に属し、雄大な自然の景観と四季折々の変化に富んだ地域を抱えている。

市域の西部と東部に豊かな自然環境をもつ丘陵地が連なっており、市域の中央部には、南北に縦断する形で一級河川の関川・矢代川が流れるとともに、広域幹線道路である上信越自動車道や国道 18 号、国道 292 号と、公共交通の中心である鉄道路が配置され、道路や駅を中心に市街地が形成されている。また、2015 年 3 月に北陸新幹線が開業したことにより、東京へ 1 時間 50 分の位置にある。



② 人口動態

2015 年の国勢調査による妙高市の総人口は、33,199 人となっており、1945 年の 60,473 人をピークに人口減少が続いている。特に 2010 年から 2015 年までの 5 年間では、市全体で 6.4%減少し、農業を主な産業とする妙高地域（旧妙高村：過疎地域）で 10.7%、観光を主な産業とする妙高高原地域（旧妙高高原町）で 11.9%と減少率が高い状況にある。

また、隣接する上越市や東京圏へ職業や生活の拠点を求めて若い世代が転出している傾向が続いており、それに伴って、地域経済を支える生産年齢人口は 18,234 人（構成比 55%）、将来を担う年少人口は 3,704 人（構成比 11.1%）にまで低下し、反面、高齢者人口は、11,235 人（構成比 33.9%）と増加し、超高齢社会を迎えている。

③ 産業構造

古くは北国街道の宿場町としてまちが栄え、その周辺では妙高山麓からの豊富な水源と肥沃な土地を活かした稲作が中心であった。

昭和に入り、水力発電所の電力を活かして化学工場が駅周辺に立地し、その後、幹線道路の整備などにより、電子機器産業の工場が進出し、主産業として地域の経済と雇用を支えているが、2008 年のリーマンショック以降、電子機器産業を中心に、市内企業の製造品出荷額は激減し、それに伴って従業員数も減少している。

また、山間地域では、山岳地帯の地形と豪雪地帯の地理的条件を強みとして、スキー場やゴルフ場などの観光産業が進出し、妙高山麓の豊かな自然や湧出量の豊富な温泉を活かした宿泊業も地域の主産業となっている。近年は、スキー産業の低迷や旅行者ニーズの多様化などにより、観光入込客数は減少し、廃業する旅館、ホテル等がある一方、ウインターシーズンにおけるオーストラリアなどからの長期滞在旅行者が増加傾向にあり、観光地としての賑わいを取り戻しつつある。

④ 地域資源

妙高山麓一帯は、雄大で四季折々の自然景観の変化に富んだ妙高戸隠連山国立公園に属し、日本百名山である妙高山、火打山などへの登山のほか、国立公園内外に広がる 8 つのスキー場、一帯から湧き出る 7 つの温泉を有する妙高高原温泉郷は、他地域に誇れる地域資源である。また、妙高山麓の豊富な雪が水源となった河川や地下水は、この地域の稲作や酒造りに適した良質な水源であり、美味しい米、酒、山菜などの食も地域資源となっており、妙高市の観光産業を支えている。

（今後取り組む課題）

① 人口減少・2040 年問題への対応

人口減少・少子高齢化がもたらす諸課題は、活力ある地域を維持していく上で解決をしなければならない最大の課題であることから、「定住人口」と「交流人口」の維持・増加に加えて、地域外の人材がまちづくりに関わる「関係人口」の創出に向けた取組を進める必要がある。また、人口減少・少子高齢化を前提としながら、ICT を活用して行政サービスを管理・運営するスマートシティの構築による持続可能なまちづくりを進めていく必要がある。

② 安全・安心に対する意識の高まり

大規模災害の初動においては、行政による対策のほか、自主防災組織による初期活動が重要であることから、あらゆる災害リスクに対応できるような行政機能の構築のみならず、地域の防災力・減災力を強化していく必要がある。

また、子どもや女性、高齢者が被害者となる犯罪や事故が増加するとともに、複雑・巧妙化する特殊詐欺などの危険も高まっていることから、これらの危険を未然に防止するた

め、市民・地域・関係機関の連携・協力のもとで市民の防犯意識を高めるための取組を進め、全ての人が安心して暮らせるまちづくりを推進する必要がある。

③ 地域経済の成熟と経済のグローバル化

人口減少による国内の需要・消費の減少が問題となる中、外国人観光客の需要を取り込み、消費拡大につなげていくため、海外に認められる観光地域づくり、商品づくりを進め、地域の魅力を世界に発信していく必要がある。

また、地域産業の人手不足問題に対処するには、これからのまちづくりを支える若い世代に魅力的で安定した雇用を創出することのほか、女性や高齢者、在住外国人などの地域の新たな力の掘り起しや、ICT の導入による生産効率の向上、テレワークの推進などによる働き方改革への対応が必要である。

④ 地球規模での自然環境への配慮

妙高戸隠連山国立公園等の豊かな自然環境が地域の宝であり、これを守り、未来へ引き継ぐため、保全活動を継続していく人材と財源の確保が重要である。パリ協定の発効や持続可能な開発目標（SDGs）採択後の世界の潮流等を踏まえ、限られた資源を有効に活用しながら環境にやさしいライフスタイルへの転換、再生可能エネルギーや省エネルギーの推進に取り組むなど、環境負荷の少ない循環型社会の形成を目指していく必要がある。

⑤ 高度情報化の進展

ICT の発達やスマートフォン等の普及によって利便性が向上する一方、若者と高齢者の世代間格差や電子・情報技術の利用に関する格差などの新たな問題が発生していることから、セキュリティ対策の強化やネットリテラシーの向上が必要である。

今後、ICT の積極的な活用は不可欠であることから、観光誘客に向けた情報発信やデジタル申請システムの導入などの行政サービスでの活用、スマート農業など労働力不足が深刻な産業分野での活用支援を進めていく必要がある。

⑥ 価値観の多様化と個性の尊重

少子高齢化の進行により仕事と子育て・老親介護との両立が課題となっていることから、仕事と生活の両立を重視し、一人ひとりの価値観に応じた働き方や暮らし方などについて多様な選択ができる環境づくりを進めていく必要がある。

これまで以上に生活の質を重視する傾向が強まる中、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進をはじめとして、一人ひとりの個性を尊重しながら、その個性が地域社会にも広く認められ、市民と行政が協働し社会全体として豊かさを実現できるような仕組みづくりが必要である。

（2）2030 年のあるべき姿

【2030 年のあるべき姿】

2005 年に、妙高市が誕生してから一貫して、「生命地域の創造」をまちづくりの基本理念として掲げ、ふるさと妙高を想う「人」と豊かな「自然」のつながりを大切にし、全ての「生命」が輝き、真の豊かさを実感でき、安心して「生命」を育むことができる地域の実現に向けた取組を進めてきた。

若者の流出による少子高齢化の進行など、私たちを取り巻く生活環境が大きく変わり、次の時代を見通すことが難しい新たな局面を迎えている中、妙高市が住みよい地域であり続けるため、まちづくりの理念を今一度、市民と共有し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために行動していくことを目指す「SDGs」の考えを取り入れ、妙高市の特徴であり、強みである「自然（＝環境）」を大切に守りながら、「経済」、「社会」との調和を図り、人口減少社会においても持続可能な都市「生命地域　妙高」を創り上げていくことを 2030 年のあるべき姿として設定する。

【実現に向けた取組】

「生命地域の創造」の実現に向けて、第 3 次妙高市総合計画（2020-2024）において分野別に施策を整理した 5 つのまちづくりの大綱ごとに施策を体系化し、基本方針を掲げ、目指す姿を明らかにするとともに、SDGs の 17 のゴールとの関係性を明確にしながら、市民、地域組織、企業など妙高市のまちづくりに関わる多様なステークホルダーと共に、施策を実行していく。

〔まちづくりの大綱1〕 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり

2020 年 1 月に策定した立地適正化計画に基づき、市民生活に必要不可欠な都市機能の集約を図るとともに、都市基盤を安定的・効率的に維持し、災害や雪に強く安全・安心に暮らせる都市環境づくりを目指す。また、防災・防犯に対する市民意識の向上と自主防災組織、妙高市防犯協会など、地域や関係機関等との連携・協力を図り、真に安全・安心な地域社会の構築を目指す。

〔まちづくりの大綱2〕 美しい自然と共に生きるまちづくり

祖先より受け継がれてきた妙高山麓の魅力ある自然環境を後世に引き継いでいくため、「生命地域妙高環境会議」を通じて官民一体となって環境保全に取り組み、豊かな生活環境を持続させるとともに、2015 年 8 月に策定した「妙高ビジョン」に基づき、地域資源としてさらに磨き上げ、多くの人たちに親しまれ愛される生命地域妙高を目指す。

〔まちづくりの大綱3〕 にぎわいと交流を生みだすまちづくり

2020 年 3 月に策定する観光振興計画に基づき、観光地域づくり法人「妙高ツーリズムマネジメント」や「妙高市グリーン・ツーリズム協議会」などとの連携により、妙高市の強みである自然資源を活かした観光誘客と受入体制を強化し、世界から選ばれる国際観光都市としての磨き上げを進めるとともに、観光業によって生み出された賑わいと交流を、商工会議所や農地所有適格法人などとの連携により、商工業や農業など地域産業の活力へとつなげ、市内経済の活性化を目指す。

〔まちづくりの大綱4〕 全ての人が元気に活躍できるまちづくり

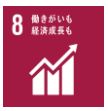
全ての市民がいつまでも健康に暮らすことができるよう、健康づくりリーダーや介護予防サポーターなどと連携して、健康寿命の延伸の取組や地域における保健・医療・福祉の体制の構築を進めるとともに、障がい者や生活困窮者など自立した社会生活への支援が必要なかた、移住者や外国人定住者など、全ての人がいきいきと元気に活躍できる地域共生社会の実現を目指す。

〔まちづくりの大綱5〕 郷土を築く人と文化を育むまちづくり

子どもたちを安心して育てることができる環境づくりと、心身ともに健康で、たくましく生きていくための教育環境づくりを推進し、次の時代を築いていく子どもたちを育てていく。また、生涯学習・生涯スポーツなどを通じて豊かな心身をつくるとともに、地元地域による歴史文化資源の保存と活用に取り組み、郷土愛の育成を目指す。

（3）2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

（経済）

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
8.3	指標：テレワークによって市内に雇用が創出されたワーカー数	
	現在（2018 年）： ―	2030 年： 150 人
8.3	指標：コーディネート組織を通じた市内企業と都市部のビジネスマッチング件数	
	現在（2018 年）： ―	2030 年： 30 件
 8.9 9.b	指標：外国人観光宿泊客数	
	現在（2018 年）： 59,721 人	2030 年： 86,400 人
	指標：観光売上額	
	現在（2018 年）： 11,643 百万円	2030 年： 16,800 百万円

2030 年を見据え、地域の基幹産業である観光産業の高付加価値化、経済循環の拡大を目指していくため、優先するゴールとして、8（働きがいも経済成長も）、9（産業と技術革新の基盤をつくろう）を設定する。

妙高市は、日本百名山の妙高山、火打山をはじめとした国立公園等の豊かな自然環境と豊富な雪や米、酒、山菜の食など、他に誇れる観光資源を有している。これらを妙高ならではの唯一無二の観光素材としてさらに磨き上げ、近年増加傾向にある外国人観光客の誘客の一層の強化と、ワーケーションによる首都圏等からの新たな顧客の獲得を図り、観光産業の売上額を拡大させるとともに、農業や商工業への市内での経済循環へつなげ、地域経済の活性化を目指す。

また、ワーケーションについては、首都圏企業の IT スキルの高い人材や副業人材と、人材を求める地元企業とを、商工団体や地元金融機関などのコーディネート組織がビジネスマッチングを支援することにより、地域産業の人手不足や生産性の向上につなげていく。

（社会）

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
3.4	指標：地域ケア会議の開催により地域課題の解決を検討している地区の数	
	現在（2018 年）： 2 地区	2030 年： 20 地区
4.7	指標：生涯学習講座の受講者数	
	現在（2018 年）： 1,001 人	2030 年： 1,800 人
	指標：地域活動人材登録者数	
	現在（2018 年）： 326 人	2030 年： 400 人
11.a	指標：移住支援窓口を通じて市外から移住した人数（累計）	
	現在（2018 年）： 437 人	2030 年： 1,750 人
11.3 17.17	指標：地域運営組織の設立・運営数	
	現在（2018 年）： 4 組織	2030 年： 14 組織

人生 100 年時代を迎え、地域における高齢者の割合が高くなる中、全ての市民が尊重され、生きがいを持ち、支援が必要なかたを地域の力で支える地域共生社会の実現を目指していくため、優先するゴールとして、3（すべての人に健康と福祉を）、4（質の高い教育をみんなに）、11（住み続けられるまちづくりを）、17（パートナーシップで目標を達成しよう）を設定する。

地域の多様な主体が参画し、地域課題を我が事として捉え、課題解決に向けて当事者意識をもって持続的に取り組む地域運営組織づくりを進めるとともに、地域ケア会議の開催により、地域課題を共有しながら、主体的に解決する活動を支援していく。

また、高齢者の社会参加や生きがいづくりを推進するため、生涯学習を推進するとともに、地域を支える人材として活躍する社会の構築を目指す。

移住・定住の促進については、移住希望者のニーズに応じた支援に取り組むとともに、転出抑制や UIJ ターンの促進など支援の充実を図り、地域の担い手の確保をしていく。

（環境）

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
4.1	指標：小学生への環境教育の実施率	
	現在（2018 年）： ー	2030 年： 100%
13.3	指標：妙高市温室効果ガス排出量	
	現在（2018 年）： 313 千t（2015 年実績）	2030 年： 231 千t
15.4	指標：ライチョウ確認数	
	現在（2018 年）： 12 羽	2030 年： 35 羽
15.4 17.17	環境サポーターズ登録者数	
	現在（2018 年）： 67 人	2030 年： 290 人

市民の環境保全意識の醸成を図るとともに、市内外からの参加による環境保全活動の推進を図り、有限な自然環境を次の時代につないでいくため、優先ゴールとして、4（質の高い教育をみんなに）、13（気候変動に具体的な対策を）、15（陸の豊かさも守ろう）、17（パートナーシップで目標を達成しよう）を設定する。

国立公園エリアをはじめ、里地・里山・里川の自然環境を官民が一体となり保全し、後世に引き継ぐとともに、国立公園の象徴であるライチョウが生息できる環境づくりなど、関係機関等との連携によって、市民や国内外の方々から親しまれ愛される国立公園を目指す。

また、公共施設等の環境に配慮した改修や、市民ぐるみの取組により、温室効果ガス排出量の削減に努めるとともに、地熱発電などの再生可能エネルギーの調査・研究に取り組み、環境に配慮した持続可能な都市を目指す。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

（1）自治体SDGsの推進に資する取組

① 持続可能な行政経営の推進

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
11.3	指標：都市機能・居住誘導区域内の人口密度	
	現在（2015 年）： 24.3 人/ha	2022 年： 24.3 人/ha
6.1 6.3	指標：官民連携手法を導入した事業数 （ガス、水道、簡易水道、下水道）	
	現在（2019 年）： －	2022 年： 4 事業

・コンパクトで住みやすいまちの形成

立地適正化計画に基づき、都市機能誘導区域内において、第三・斐太南・矢代保育園 3 園の統合園と、新図書館を核とする都市機能複合施設の整備を進め、都市機能の集積を図る。また、居住誘導区域内での宅地造成、住宅の取得（新築・建売・中古）・克雪化に対する財政的支援を行うとともに、市街地循環バスと周辺地区からのコミュニティバスを導入し、豪雪地帯でも住みやすい市街地を形成する。

・民間によるガス・上下水道事業の維持

安全で安定した都市ガス（公営）の供給と水道、下水道の供用を維持するため、2022 年度の民間へのガス事業譲渡、上下水道事業・簡易水道事業の包括委託を進める。

② 未来を担う子ども・若者の育成

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
4.7	指標：リーダーシップ能力が向上した児童の割合	
	現在（2018 年）： 83.8%	2022 年： 87.0%
17.14 17.17	指標：みょうこうミライ会議による行政課題解決数	
	現在（2019 年）： －	2022 年： 6 件

・グローバル化に対応できる人材の育成

観光地である妙高市において、近年、外国人の観光客や移住が増加していることから、外国語指導助手を増員し、園から学校まで連続性のある実用的な英語教育を推進するとともに、市内全中学2年生と小規模特認校6年生を対象に、英語4技能検定を導入し、子ど

もたちの英語力の向上を図る。特に、小規模特認校である新井南小学校では、台湾の小学校との海外宿泊体験学習やICT機器を活用した遠隔交流を図り、コミュニケーション能力の向上を図る。また、全小学6年生を対象に国立妙高青少年自然の家で4泊5日の宿泊・自然体験を行い、「ふるさと妙高」への愛着心と誇りを育むとともに、これからの時代をたくましく生き抜くリーダーシップ能力の向上を図る。

・地域を牽引する担い手の育成

市職員や地域人材に都市部人材を加えた官民連携プラットフォーム「みょうこうミライ会議」を新たに設置し、地域課題を解決する力を持った人材の育成を進める。また、自然保護活動などに携わる市民と、国や県等の関係機関による協働組織「生命地域妙高環境会議」を通じて、児童や市民等を対象に生物多様性、地球温暖化などに関する環境教育を進め、将来にわたって自然環境を守り伝える担い手を育成する。

③ 地域共生社会の構築

<table>
<tr><th>ゴール、
ターゲット番号</th><th colspan="2">KPI（任意記載）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">
11.3
17.17</td><td colspan="2">指標：地域運営組織の設立・運営数</td></tr>
<tr><td>現在（2018 年）：
4 組織</td><td>2022 年：
10 組織</td></tr>
<tr><td rowspan="2">
17.17</td><td colspan="2">指標：実働する見守りネットワーク数</td></tr>
<tr><td>現在（2019 年）：
442 ネットワーク</td><td>2022 年：
500 ネットワーク</td></tr>
</table>

・全てを支える住民主体の地域福祉づくり

地域の実情に応じた地域づくり活動を支援し、地域全体で支え合う地域運営組織づくりを市内全域に拡大する。特に、過疎化が著しい新井南部地域、妙高地域をモデル地域とし、地域における共助活動や地域づくり活動に対する財政的な支援と、住民との協働による生活支援体制の構築を進めるとともに、行政庁舎（妙高支所）を改修し、地域活動の拠点、居場所としての機能を高め、地域包括ケアシステムの充実を図る。また、高齢者や障がい者などの支援が必要なかたが地域から孤立することなく、住み慣れた地域で安全・安心に日常生活を送れるよう、地域住民や社会福祉協議会などが連携した見守りネットワークを市内全域で構築する。

④ 地域産業の高付加価値化

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）	
8.9 9.b	指標：域内循環額	
	現在（2018 年）： 1,979 百万円	2022 年： 2,600 百万円
8.9 9.b	指標：年間観光売上額	
	現在（2018 年）： 11,643 百万円	2022 年： 13,214 百万円

・唯一無二の観光素材の磨き上げ

2022 年度にオープンが予定されている、新たな「妙高高原ビジターセンター」の整備にあわせて、国立公園の第 1 種特別地域に指定されているいもり池周辺の観光拠点化を進めるとともに、2019 年に地方創生推進交付金を活用してリニューアルした市営「高谷池ヒュッテ」を拠点とし、妙高戸隠連山国立公園の自然資源を活かした山岳観光の強化を図る。

また、長野県北信地域の自治体や観光団体と連携したロードバイクを活用した誘客事業のほか、信越五岳トレイルランニングレースなどのアウトドア・スポーツツーリズムや広域旅行商品の造成により、広域的な滞在型観光地づくりを進める。

・妙高市への新たな観光誘客の推進

観光地域づくり法人が進めるインバウンド誘客を強化するため、専門員を拡充するとともに、県と連携しながら、アジア圏をターゲットとしたプロモーション活動を展開し、新たな観光客の獲得に取り組む。

また、首都圏等の企業やフリーランス等をターゲットとして「仕事（Work）」と「休暇（Vacation）」を組み合わせたワーケーションのコーディネート組織の体制をつくるとともに、ワーケーションプログラムの構築とプロモーションを実施し、新たな顧客層を獲得する。（地方創生推進交付金申請予定事業）

（2）情報発信

（域内向け）

●幼児期から SDGs の取組の啓発

国連では、きかんしゃトーマスやハローキティとコラボレーションした SDGs のアニメーションを制作していることから、市内幼稚園や保育園でアニメーションを視聴する機会を設けるなど、幼児期から SDGs の取組について啓発する。

●市内小中学校の総合学習における普及啓発

市内小中学校の総合学習の中で、国立公園等に関する環境教育や今後のまちづくりについての授業を行う際に、SDGs 教育も実施する。

●生涯学習講座「まなびの杜」における SDGs 講座

市民が生涯にわたって学習できる場として「妙高はねうまカレッジ『まなびの杜』」を開講していることから、その中で妙高市のまちづくりと SDGs の取組を啓発する。

●SDGs 普及啓発のための研修会の開催

2019 年 11 月に市職員向け、市民向けにそれぞれ開催した地域協働のまちづくりに向けた研修の中で、「SDGs de 地方創生」のカードゲームを通じ、体験しながら持続可能なまちづくりのあり方について学習しており、今後も機会を捉えて妙高市の施策と SDGs の関連性についての研修を開催し、市民や関係団体、市職員の意識の醸成を図る。

●情報発信やイベント時における普及啓発

行政情報やイベント情報など市民向けの情報発信時に、その取組と SDGs の関連性を表記してきめ細やかな普及啓発を図る。

（域外向け（国内））

●入域料寄付者へのPR

妙高山、火打山の登山者に入域料を寄付していただく際に、ライチョウの保護など入域料の活用目的と SDGs の取組を説明し、より多くのかたから賛同される仕組みを構築していく。

●SNS、広告動画、冊子等を用いた発信

ホームページや SNS などの情報発信ツールに加え、観光パンフレットや移住イベントなど機会を捉えて妙高市のまちづくりと SDGs の関連性を周知するとともに、全国から参加者が多く集まる信越五岳トレイルランニングレースやスキー大会等のイベント案内・イベント開催時に情報発信を行っていく。

●地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム

会員自治体として、妙高市の取組を全国に発信する場にするとともに、共通の理念を持つ自治体とのパートナーシップの構築により、連携した取組の実施や取組の横展開につながるよう、活用を進めていく。

（海外向け）

●海外向けプロモーションにおける情報発信

外国人観光客の更なる拡大に向けて海外向けプロモーションを実施していく際に、ライチョウの保護など入域料の活用目的と SDGs の取組を説明するとともに、自然資源の保全と活用の調和を図りながら観光資源として活用していることなどを海外に発信していく。

●姉妹都市との交流における発信

姉妹都市であるスロベニアのスロヴェニ・グラデッツ市と高校生の交流、スイスのツェルマット村と中学生の交流を行っており、交流時において妙高市のまちづくりと SDGs の取組について意見交換するとともに、発信していく。

（3）普及展開性（自治体 SDGs モデル事業の普及展開を含む）

（他の地域への普及展開性）

第 3 次妙高市総合計画の施策と SDGs の相関関係を明確にし、全庁的な政策決定機能「総合計画・SDGs 推進本部」を立ち上げ、モデル事業のみならず、全ての施策において経済、社会、環境の三側面のバランスを保った事業の推進は、他の自治体でも展開が可能である。

また、市職員の SDGs の意識を高め、市民や来庁者等に市の姿勢を示すため、全職員に対し、カラーホイールバッジを配布するほか、名札に SDGs を推進している旨を明示することは、他の自治体でも容易に実施が可能である。

市長のリーダーシップのもと、このようなことを行ったことにより、実際に市職員だけでなく、市議会及び市内の事業所、学校などに SDGs の大切さが伝わっており、普及展開が可能なモデルとして効果的な方法と考えている。

（自治体SDGsモデル事業の普及展開策）

妙高市のモデル事業は、豊かな地域資源を核として地域の魅力を高め発信することにより、人の流れを創出し、地域への経済効果や移住、自然環境保全活動への協力につなげていく取組を進めるものであり、消滅可能性都市における持続可能性のモデル都市として、様々な取組に挑戦していくものである。周辺自治体や国立公園を有する類似自治体への波及効果も期待されるものであり、官民連携プラットフォームなどを通じて普及展開を図っていく。

1.3 推進体制

（1）各種計画への反映

1. 第 3 次妙高市総合計画（妙高版総合戦略（第 2 版））

2019 年度に策定し、2020 年から 2024 年までの 5 年間を計画期間とする第 3 次妙高市総合計画は、最重要課題である人口減少問題への対応を総合的かつ戦略的に進めるための総合戦略としても位置付けるとともに、基本理念と SDGs の目指す方向性は同じであると考え、各施策と SDGs の関係性を明確に位置付けている。

策定過程においては、「産官学金労言」の参加による審議会をはじめ、市民説明会や議員との意見交換会を通じて考えを共有するとともに、出された意見を十分に反映し、市議会の議決をもって策定した。計画の推進にあたっては、取組の考えを示しながら、市民・議会・行政の協働により、全市で持続可能なまちづくりを進めていく。

2. 第 2 次妙高市地球温暖化対策地域推進計画

現代の重要課題である地球温暖化防止に向け、市民、事業者、行政が一体となって温暖化対策の更なる強化を図るため、第 2 次妙高市地球温暖化対策地域推進計画を 2018 年度に策定している。

策定にあたっては、パリ協定の発効や SDGs を踏まえた世界の潮流、国の地球温暖化対策計画等を踏まえており、SDGs の達成に向けた取組の推進を図る。

3. その他の個別計画

第 3 次妙高市総合計画の策定に伴い、今後策定・改訂される個別計画においても、SDGs との関連性を明らかにし、まちづくりの基本理念の実現と同時に SDGs の目標達成に向けた取組をあらゆる部署で推進していく。

（2）行政体内部の執行体制

【推進体制】

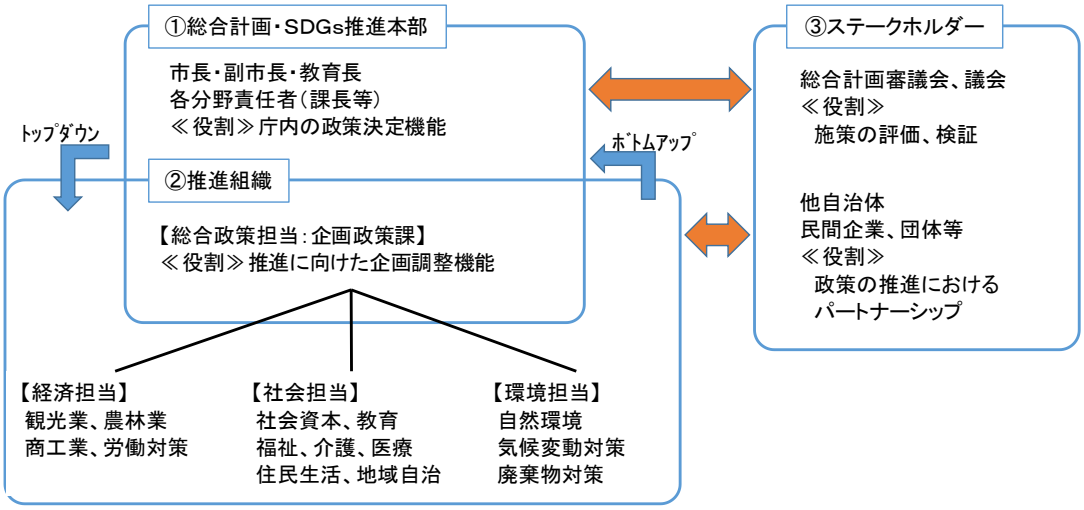
市長をトップに、副市長・教育長、各課長による政策決定機能「総合計画・SDGs 推進本部」を 2019 年 12 月に立ち上げ、企画政策課が事務局となり、各施策の担当間の企画調整機能を果たしながら、トップダウンとボトムアップのバランスをとっていくとともに、SDGs 関連施策については、「経済」・「社会」・「環境」の 3 側面をつなぐ統合的取組が重要であることから、これらのバランスを保ちながら、事業を進めていく。

また、全職員に対し、カラーホイールバッジを配付するほか、名札に SDGs を推進している旨を明示し、庁内における SDGs 推進の意識の高揚とあわせ、対外的な普及・啓発を図っている。

統合的取組の推進にあたっては、他の自治体や民間企業、団体等の利害関係者（ステークホルダー）とのパートナーシップが重要であることから、事業の進捗にあわせて、適切

な団体等との連携を図っていく。

個々の施策については、総合計画審議会において毎年度評価・検討するとともに、予算・決算審議を通じて議会に諮りながら改善に努めていく。



（3）ステークホルダーとの連携

1．域内外の主体

将来にわたって持続可能な地域社会を構築し、「生命地域の創造」を実現していくためには、市民の協力、相互の支え合いが必要不可欠である。地域では、若者の流出や少子高齢化に伴う担い手不足が深刻な状況にあるほか、高齢者等の見守りや雪処理、通院等の生活支援の需要の増加、空き家や管理不全の里山等の対策など、複雑多様化する地域課題を抱えている状況にある。

地域を維持していくため、行政、地域住民と協働して、地域づくりに関する各種事業を展開するNPO（いきいき長沢、みずほっと、ふるさとづくり妙高など）が活動しているが、この取組を全市的に拡大していくため、2020年4月から地域共生課を市役所内に設置し、市域全体での地域運営組織の設立と、地域の活性化に向けた支援に取り組んでいく。地域の将来を見据え、住民が当事者意識を持ち、住民自らが持続可能な地域づくりを進めていく地域運営組織は、自治体SDGsの推進にあたり重要な役割を担っていることから、その活動を支援し、地域と行政が連携を図りながら持続可能なまちづくりの実現を目指していく。

また、首都圏企業・人材を関係人口として捉え、仕事をしながら休暇を楽しむワーケーション事業、市内企業と首都圏の人材をマッチングするビジネスマッチング事業、首都圏企業からのテレワークによる受注業務を推進するテレワーカー創出事業を展開していくこととしており、2019年度中に日本能率協会マネジメントセンター（JMAM）、㈱We'll Being JAPANとワーケーション事業に向けた包括連携協定を締結している。

2. 国内の自治体

妙高市は地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームに入会し、分科会にも参加していることから、方向性を同じくする自治体と連携を図っていくとともに、妙高戸隠連山国立公園に属する自治体や、広域観光圏を構成している自治体とは、地域資源の保全や活用方法について共通の認識をもって取り組んでいく必要があることから、情報共有や広域連携を図っていく。

また、大阪府吹田市、愛知県北名古屋市、茨城県東海村など友好都市として交流している自治体と相互交流や災害支援等を行う中で連携を図っていく。

3. 海外の主体

姉妹都市であるスロベニアのスロヴェニ・グラデッツ市と高校生の交流、スイスのツェルマット村と中学生の交流を行っていることから、交流にあわせて SDGs の普及展開を図るとともに、グローバル社会に対応した人材育成を進める。

（4）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

ワーケーション等をきっかけとして妙高市に訪れる首都圏等企業やフリーランスの人材と地元企業とを、金融機関（地域商社）等を通じて結び付け、経営・事業展開上の課題解決や事業革新につなげていく。更には、市内企業の事業革新や新商品開発などに積極的にチャレンジする「攻めの経営」への転身、都市部人材等のスキルやノウハウを活用した地域産業の高付加価値化と、事業収益性の向上や雇用の拡大などにつなげていく。

これにより、民間企業の地方創生 SDGs の推進を地域の活性化につなげる仕組みが構築される。

2. 自治体SDGsモデル事業 （特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

（1）課題・目標設定と取組の概要

（自治体SDGsモデル事業名）

世界に誇れる持続可能な「環境観光都市　MYOKO」の実現

（課題・目標設定）

①経済面

【解決を目指す課題】

・観光客の減少と観光産業の衰退（8.9、9.b）

・地域産業の担い手不足（8.3）

【達成を目指す目標】

	ゴール 8 （働きがいも経済成長も）	**ターゲット 8.3、8.9**
	ゴール 9 （産業と技術革新の基盤をつくろう）	**ターゲット 9.b**

②社会面

【解決を目指す課題】

・首都圏等への若年層の流出等による地域組織の担い手不足（10.7、11.3、17.17）

・管理不全な特定空き家の増加（11.b）

【達成を目指す目標】

	ゴール 10 （人や国の不平等をなくそう）	**ターゲット 10.7**
	ゴール 11 （住み続けられるまちづくりを）	**ターゲット 11.3、11.b**
	ゴール 12 （つくる責任　つかう責任）	**ターゲット 12.5**
	ゴール 17 （パートナーシップで目標を達成しよう）	**ターゲット 17.17**

③環境面

【解決を目指す課題】

・地球温暖化を起因とした生態系等への影響（7.2、13.3、15.4、15.5、15.8）

・担い手不足による環境保全活動の縮小（15.a、17.16、17.17）

【達成を目指す目標】

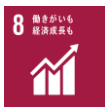
	ゴール 7 （エネルギーをみんなに　そしてクリーンに）	**ターゲット 7.2**
	ゴール 13 （気候変動に具体的な対策を）	**ターゲット 13.3**
	ゴール 15 （陸の豊かさも守ろう）	**ターゲット 15.4、15.5、15.8**
	ゴール 17 （パートナーシップで目標を達成しよう）	**ターゲット 17.16、17.17**

（取組の概要）

世界的な製造業の低迷が続く中、妙高市の社会経済を持続させていくには、強みであり伸び代のある観光産業の再生が鍵である。2015 年に分離独立した妙高戸隠連山国立公園などの自然資源の保全と、観光資源の適切な活用を図り、インバウンドを呼び込むことのできる世界に誇れる持続可能な「環境観光都市　妙高」の実現を目指す。

（2）三側面の取組

① 経済面の取組

ゴール、ターゲット番号	KPI	
 8.9 9.b	指標：年間観光売上額	
	現在（2018 年）： 11,643 百万円	2022 年： 13,214 百万円
9.b	指標：観光入込客数	
	現在（2018 年）： 578 万人	2022 年： 592 万人

①－１　山岳観光によるグリーンシーズンの誘客拡大

海外への誘客プロモーションを進めた結果、外国人観光客は増加傾向にあるが、その多くはホワイトシーズンである。年間を通じた誘客拡大を図るため、2019 年度に改修整備した市営「高谷池ヒュッテ」の利用促進を図るなど、自然資源の魅力を活かし、山岳観光によるグリーンシーズンの誘客を拡大する。

・高谷池ヒュッテの指定管理者である観光地域づくり法人（一社）妙高ツーリズムマネジメントが行う山開きイベントの開催や、海外向けのツアー商品の造成と販売
・妙高戸隠連山国立公園の分離独立 5 周年を祝して国立公園内でのアウトドアイベントの開催
・民間事業者による国立公園内でのグランピングの実証実験

①－２　地域資源を活かしたツーリズム等の推進

妙高市の豊かな自然や農山村、温泉、スポーツ、歴史文化など多様な地域資源を活かしたツーリズムにより、ここでしか体験できない満足度の高い観光商品を販売・宣伝し、四季を通じて妙高の魅力を高め、多様な団体や幅広い層の交流を促進する。

・信越五岳トレイルランニングレースや妙高・野尻湖 SEA TO SUMMIT など、豊かな自然を活かしたイベントやアクティビティの実施
・農業体験を通じた農山村での滞在体験型旅行や都市農村交流の拡大
・豊かな自然や準高地トレーニングに適した環境を活かしたスポーツ等の合宿誘致
・北国街道の関所や国指定の名勝旧関山神社宝蔵院庭園などの歴史文化の商品化
・ヘルスツーリズム認証を取得した健康保養地プログラムによる交流の拡大

①－３　ワーケーションを通じた外部人材の活用

東京オリンピック・パラリンピックの交通混乱の回避に向けたテレワークの推進にあわせて、豊かな自然を活かしたワーケーションの促進に向けて、2019 年 11 月に㈱日本能率協会マネジメントセンター（JMAM）と包括連携協定を締結したほか、2020 年 2 月に㈱We’ll-Being JAPAN による妙高高原駅敷地内でのコワーキングスペースの設置が行われた。

今後、民間事業者等と連携しながら、テレワーク・デイズを追い風に「環境観光都市　妙高」の魅力を全国に発信し、首都圏等の外部人材の活用を図る。

・専従コーディネーター等による事業の推進体制を構築
・ワーケーションプログラムの開発・プロモーション
・市内企業向け啓発セミナーの開催など、ビジネスマッチングの推進
・テレワーク研修交流施設の整備

（地方創生推進交付金申請予定事業）

①－４　民間事業者による国際観光リゾート開発の誘致

妙高市の観光産業を、全国のスノーリゾートを有する自治体と比較すると、観光入込客数は高い水準にあるのに対し、宿泊者数は低い水準にとどまっており、人口当たりの観光売上額では他自治体を下回っている。

そのため、民間事業者による国際観光リゾート開発の誘致を進め、外国人富裕層や長期滞在の受入環境の整備を図る。

・自然景観に配慮した民間事業者による国際観光リゾート開発の誘致

①－５　妙高ブランドを高める六次産業化の推進

妙高市の基幹作物は水稲であるが、米価の低迷や米の消費量が年々減少していることから、安定した農業経営を進めるため、園芸への転換を促進するとともに、六次産業化による地域の特産品の創出と付加価値の向上を図るとともに、

2020 年に「道の駅あらい」に新たな農業振興施設がオープンすることから、園芸作物の販売を拡大するとともに、新たな六次産業化商品の特産品化に取り組んでいく。

・中山間地域における園芸品目の拡大に向けた機械導入支援

・農産物直売所や農家レストラン、農産物加工所、雪室などを有する農業振興施設「四季彩館　みょうこう」を活用した園芸作物等の販売拡大

・加工用ブドウの品質向上や収量確保、商品販売に向けた支援

（事業費）

３年間（2020～2022 年）総額：411,907 千円

② 社会面の取組

ゴール、ターゲット番号	KPI	
11.a	指標：移住支援窓口を通じた移住者数（累計）	
	現在（2018 年）： 437 人	2022 年： 870 人
12.5	指標：移住・定住を目的とした空き家等の活用数（累計）	
	現在（2018 年）： 116 件	2022 年： 240 件

②－１　全てを支える住民主体の地域福祉づくり

人生 100 年時代を迎え、地域における高齢者の割合が高くなる中で、支援が必要なかたを地域で支える共生社会を築くとともに、市民がいつまでも元気で地域を支える人材として活躍する社会を構築していく。

・地域住民が主体となって地域課題の解決や住民同士で支え合う地域運営組織を設立
・学校や地域への元気高齢者の社会参加の促進
・生涯学習講座「まなびの杜」を通じた生涯学習の推進と学びの成果を地域に活かす地域人材登録制度の拡大

②－２　地域を牽引する担い手の育成

地域の担い手が減少する中、地域を牽引する担い手となる人材の育成が必要であることから、市職員や地域人材に都市部人材を加えた官民連携プラットフォームを設置し、地域課題を解決する力を持った人材の育成を進めるとともに、生命地域妙高環境会議を通じて児童や市民等を対象にした自然環境、地球環境に関する環境教育を進め、「ふるさと妙高」への愛着心や誇りを育み、将来にわたって自然環境を守り伝える担い手を育成する。

・都市部人材を交えた官民連携プラットフォーム「みょうこうミライ会議」の開催による地域人材の育成
・生命地域妙高環境会議と連携し、児童等を対象にした環境教育の実施

②－３　地域住民と移住者の相互共生

外国人等の移住者が増加傾向にあり、地域のごみ出しや排雪など生活する上でのルール等の指導を行っているが、地域独自の生活ルールの難しさや日常のコミュニケーション不足から馴染めないケースが生じているため、定住後のフォローを強化し、地域住民との共生社会を構築する。

・移住者が地域で生活する上でのルールの理解向上のためのガイドブックの配布
・移住者と地域住民との交流会の開催

②－４　空き家等を活用した国内外からの移住・定住の促進

高齢者世帯の増加や利便性の高い住宅地への引っ越し等によって生じる空き家が増加しており、老朽化した空き家の倒壊や観光地としての景観を損なうことが懸念されている。

一方で、妙高市に魅力を感じ、国内外から移住されるかたが増加傾向にあることから、空き家登録制度への登録促進を図るとともに、住宅取得等に係る財政支援により、空き家等を活用した転入人口の拡大を図る。

・新築や中古住宅の取得、家財道具の処分に係る費用の一部を補助
・空き家見学ツアーの開催と参加者への宿泊費助成

（事業費）

3年間（2020～2022 年）総額：489,912 千円

③ 環境面の取組

ゴール、ターゲット番号	KPI	
13.3	指標：温室効果ガス排出量	
	現在（2018 年）： 313 千t	2022 年： 280 千t以下
15.4 17.17	指標：環境サポーターズ登録者数	
	現在（2018 年）： 67 人	2022 年： 127 人
15.4	指標：ライチョウ確認数	
	現在（2018 年）： 12 羽	2022 年： 18 羽

③－1 二酸化炭素排出量の抑制

近年の猛暑や巨大台風による甚大な豪雨被害、記録的な暖冬少雪などが地域経済へ与える影響は深刻であり、パリ協定で定める 2050 年の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、公共施設における二酸化炭素排出量の抑制や公共交通の利用促進を図るとともに、市民や企業への取組拡大を進める。

・妙高クリーンセンターの長寿命化に係る基幹改良工事にあわせ、二酸化炭素排出量の抑制
・市役所妙高支所等の大規模改修に伴う空調設備の省エネルギー化
・公共施設への再生可能エネルギーの導入促進
・利便性の高い市街地循環バスの運行による公共交通の利用促進
・環境情報の提供とエコアクション 21（環境経営システム）認証取得の支援

③－2 地熱発電の導入に向けた調査研究

民間事業者が主体となって温泉資源を活かした地熱発電の調査研究が進められており、温室効果ガスの削減や地域振興が期待されることから、地域住民との調整を図りながら、導入に向けた検討を進める。

・開発事業者や地域住民、市等で構成する（仮称）地熱資源活用協議会の設置検討

③－３　頸城山塊に生息するライチョウの保護対策

国内生息地の最北に位置する頸城山塊のライチョウは、非常に小規模な個体群で、絶滅が危惧されている集団の一つとされている。

そのため、有識者との連携によりライチョウの行動把握やライチョウを捕食する動物の駆除、高山帯における植生保全など、高山帯の貴重な自然資源の保護に向けて効果的な取組を進める。

・入域料を活用したライチョウ保護事業

・クラウドファンディングを活用したライチョウ生息環境の保全

③－４　環境サポーターズ等の協働による自然環境保全活動

2016 年度に官民協働組織である生命地域妙高環境会議を設立し、3 つのプロジェクト（①火打山自然再生プロジェクト、②奥山、里山、里川の再生・保全プロジェクト、③自然体験プロジェクト）を設定し、様々な取組を進めている。これらのプロジェクトの目標達成に向けて多くのかたから協力を得る仕組みとして 2018 年度には「環境サポーターズ制度」を創設しており、市内外の方々の協力を得ながら自然環境の保全活動に取り組んでいく。

・オオハンゴンソウの駆除やいもり池のスイレン駆除などの生物多様性保全活動

・高山植物等希少植物の保護啓発活動

・講習会等を通じた環境サポーターズのスキルアップ

③－５　地域自然資産法に基づく入域料の実施

国では、自然環境の保全と持続可能な利用を推進していくためには、公的資金による取組に加え、利用者負担等の民間資金による取組を促進していく必要があるとして、2014 年に「地域自然資産法」を制定している。

妙高市においても、国立公園の自然環境の保全と持続的な活用を図るため、2018 年から同法に基づく入域料の社会実験を進めており、沖縄県竹富町の竹富島に次ぐ全国で 2 番目の導入を図り、持続可能な自然環境保全体制の構築を進める。

・地域自然資産法に基づく入域料の実施

（事業費）

３年間（2020～2022 年）総額：15,882 千円

（3）三側面をつなぐ統合的取組

（3－1）統合的取組の事業名（自治体SDGs補助金対象事業）

（統合的取組の事業名）

まち・ひと・自然の好循環サイクルの実現

（取組概要）

妙高山麓の自然環境は、観光を基軸とした地域経済をつくり、暮らしやすい地域社会を築いてきた。この地域の持続可能性を高めるため、ICTを活用した地域自然資産法に基づく入域料の収受、海外、首都圏等からの誘客促進、環境教育・SDGs教育の推進による人材育成を図り、まち・ひと・自然の好循環サイクルを実現する。

（事業費）

3年間（2020～2022 年）総額：54,813 千円

（統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫）

持続可能な自然環境保全体制の構築に向けて、地域自然資産法に基づく入域料の本格実施を進めているが、2019 年 7 月から 10 月に実施した社会実験結果では、協力金約 370 万円に対し、収受に要する人件費等が約 180 万円（協力金の 48.6%）を占めていることが課題となっている。登山者等の善意である入域料の適切な活用を図るため、無人の入域料収受システムを開発し、効率的に環境保全活動や登山道整備などへの活用を図り、自然環境の保全と資源の磨き上げを進めるとともに、システム開発にあわせてデジタルサイネージ等で入域料寄附者に対し、環境保全の必要性や SDGs の普及を可能とする仕組みを取り入れることで、多くのかたへの環境観光都市の PR と観光客増加によるトレードオフ（観光公害）の緩和につながり、持続可能な自然環境保全体制のモデル地域として他自治体への展開が期待できる。さらに、ICT を活用した登山保険の加入や、GPS による遭難時の緊急通報装置など、安全な山岳観光のための付加価値を高める新たなサービスの提供も研究していくこととしている。

また、SDGs 官民連携プラットフォームの分科会「国立公園における SDGs 地方創生に資するビジネスを創出する官民連携分科会」に参加し、他の自治体や民間事業者等との研究を進めながら、国立公園を活用したグリーンシーズンの誘客拡大に向けたマーケティング調査や新たなコンテンツの実証を行い、外国人観光客等に認められる「ナショナルパーク」を目指していく。

さらに、磨き上げた自然環境をワーケーションプログラムとして利用するとともに、首都圏等では体験することのできない外来生物駆除活動や森林整備作業などを組み合わせた環境保全型ワーケーションとしてモデル事業を通して旅行商品化することにより、CSR 活動に積極的な企業等への PR を進め、社会貢献と環境保全につながる新たなワーケーシ

ョンの普及拡大を図る。
官学連携による環境保全の調査研究を進め、その研究成果や SDGs の取組を市民等へフィードバックすることで環境保全に取り組む担い手の育成を進める。
これらの統合的取組によって、ICT 技術の活用と民間企業や市民などの多様なステークホルダーによって自律的好循環を形成し、将来にわたって持続可能な環境観光都市を実現していく。

（3－2）三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等（新たに創出される価値）

（3－2－1）経済⇔環境

（経済→環境）

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：入域料協力金額	
現在（2018 年）： 1,460 千円	2022 年： 4,400 千円

インバウンドを呼び込む活用実証とナショナルパーク MYOKO ポテンシャル調査により、経済面のグリーンシーズンの山岳観光に訪れる外国人観光客が増加し、環境面において、入域料（環境保全活動や登山等の整備などに活用できる財源）の増加という相乗効果が見込まれる。

（環境→経済）

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：観光入込客数	
現在（2018 年）： 578 万人	2022 年： 592 万人

入域料の収受システムの運用により、環境面の環境保全活動や登山等の整備などに活用できる財源の確保が改善され、経済面において、山岳観光の魅力向上によるグリーンシーズンの誘客の増加という相乗効果が見込まれる。

（3－2－2）経済⇔社会

（経済→社会）

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：移住支援窓口を通じた移住者数	
現在（2018 年）： 437 人	2022 年： 870 人

インバウンドを呼び込む活用実証とナショナルパーク MYOKO ポテンシャル調査により、経済面のグリーンシーズンの山岳観光に訪れる外国人観光客が増加し、地域内消費が拡大することで、社会面において、観光ビジネス等を求めた国内外の移住者の拡大と移住者等の安定した雇用が創出され、社会動態における人口減少の抑制が見込まれる。

（社会→経済）

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：企業の雇用創出数	
現在（2018 年）： 75 人	2022 年： 94 人
指標：市内での新規起業数	
現在（2018 年）： 25 件	2022 年： 34 件

環境保全活動とテレワークを組み合わせた環境保全型ワーケーションを行うことにより、首都圏等の企業による空き家・空き店舗等の既存ストックを有効活用したサテライトオフィス等の開設が見込まれ、経済面において、高度なスキルとノウハウを持った人材と、市内企業とのビジネスマッチングを通じて、市内企業の事業革新や新商品開発、生産性向上など、新しい事業連携の創出が見込まれる。

（３－２－３）社会⇔環境

（社会→環境）

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：環境サポーターズ登録者数	
現在（2018 年）： 67 人	2022 年： 127 人

環境保全活動とテレワークを組み合わせた環境保全型ワーケーションを行うことにより、妙高市に訪れた首都圏等の企業・人材が社会面の地域組織の担い手不足を解消する新たな担い手（関係人口）になると見込まれるとともに、環境面において、環境サポーターズとして、観光保全活動に参画することが見込まれる。

（環境→社会）

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：移住支援窓口を通じた移住者数	
現在（2018 年）： 437 人	2022 年： 870 人
指標：移住定住を目的とした空き家等の活用数	
現在（2018 年）： 116 件	2022 年： 240 件

環境保全活動とテレワークを組み合わせた環境保全型ワーケーションを行うことにより、環境面において、妙高市に訪れた首都圏等の企業・人材による環境保全活動が社会貢献の一環で行われることが見込まれ、社会面において、自然環境が豊かな妙高市での二地域居住を希望されるかたによる空き家等の既存ストックの活用が見込まれる。

（4）多様なステークホルダーとの連携

分野	団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
経済	地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム（分科会）	自然資源を活用した高付加価値で持続可能な体験型コンテンツをはじめ、国立公園を活かした新たなビジネスの創出に向けた議論を進める。
経済	（一社）妙高ツーリズムマネジメント	観光地域づくり法人による地域資源を活かした旅行商品の造成や、マーケティング調査、顧客管理システムを活用した効果的なプロモーションを行い、誘客の拡大を図る。
経済 社会	（一社）妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会	経済面では、教育体験旅行の誘致活動や民泊受入家庭の拡大等を通じたグリーンツーリズムの推進と地域の活性化を図る。 社会面では、ワーケーション事業の推進主体として連携を図りながら、関係団体や企業との調整、体験プログラム等の充実による事業の拡大につなげていく。
社会	地域運営組織	地域住民が相互で支え合う地域運営組織を設立し、地域課題の解決に向けた取組や生活支援の体制を構築し、共生社会の実現を図る。

分野	団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
社会	㈱日本能率協会マネジメントセンター（JMAM）	2019 年 11 月にワーケーション事業の実施に向けた包括連携協定を締結している。これにより、JMAM のノウハウやネットワークを活かし、企業研修を組み込んだワーケーションプログラムを通じたワーケーションの推進を図る。
社会	えちごトキめき鉄道㈱ ㈱We'll-Being JAPAN	2020 年 1 月に 3 社で協定を締結し、同年 2 月から妙高高原駅にコワーキングスペースを設置し、妙高市におけるワーケーションの魅力を国内外に発信する。
社会 環境	国際自然環境アウトドア専門学校	社会面では、自然を活かした体験プログラムの共同開発などワーケーション事業の拡大に向けて連携を図る。 環境面では、ライチョウの保護や自然環境の保全に向けて連携を図るとともに、官学連携による地球環境や自然環境による研究を進める。
環境	上越教育大学	官学連携による地球環境や自然環境による研究を進めるとともに、研究成果を小中学校等に還元する環境教育の講義や、政策に対する助言・指導を行う。
環境	生命地域妙高環境会議	自然環境保全活動の推進に向け、環境サポーターズ制度を活用し、市内外から活動の参画を図るとともに、入域料の正式導入に向けた議論を行う。
環境	環境省 （仮称）いもり池ビジターセンター	入域料の本格実施に向けて調整を行う。また、国立公園の自然環境保全の拠点施設として連携を図る。

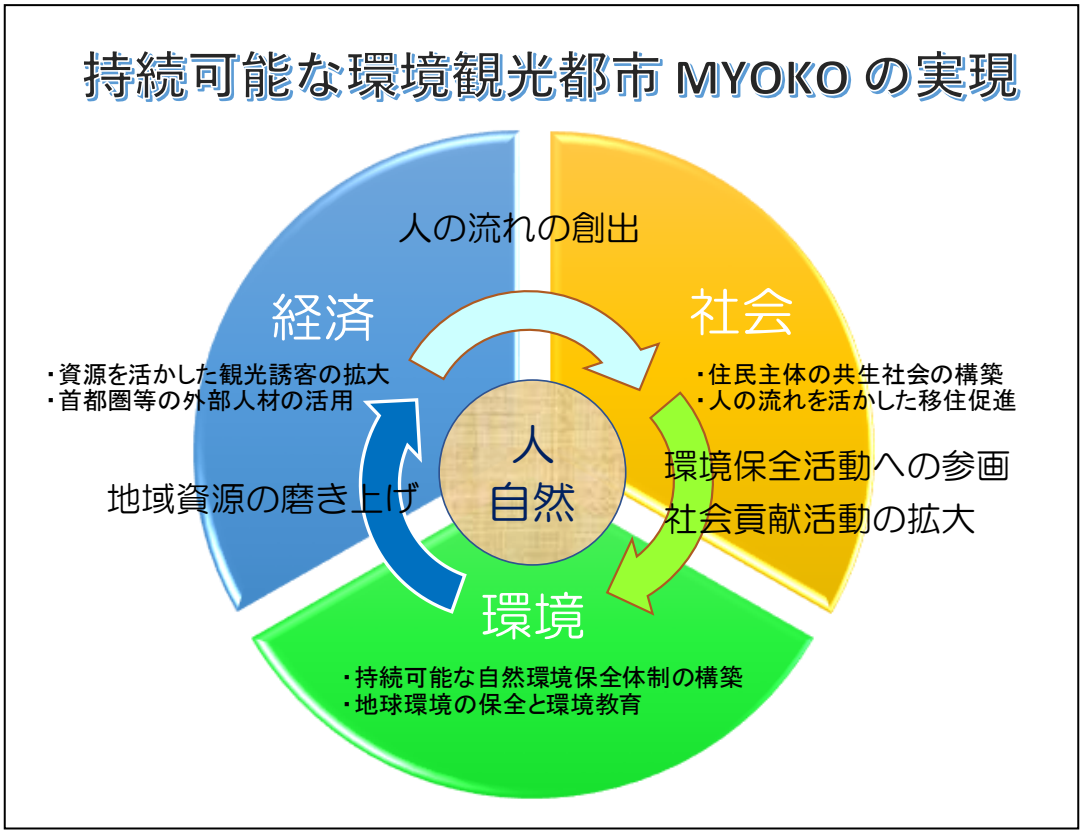
（5）自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

このモデル事業は、妙高ならではの“自然”を将来にわたって保全しながら、自然を活かした観光地として“人”を呼び込み、市民と妙高市との関わりをもつ“人”が一緒になって持続可能な“環境観光都市　妙高”を創り上げていくものである。

そのため、“自然”を活かしてグリーンシーズンの山岳観光やツーリズムの推進、ホワイトシーズンの誘客拡大に向けた誘客活動を進めるとともに、将来にわたって“自然”を保全していくための入域料の導入や環境保全体制の充実、小中学生や市民等への環境に対する理解の深化を図っていく。

そして、観光やワーケーション、移住イベント等を通じて妙高市の魅力を発信し、人の流れを創出して移住定住の拡大を図るとともに、市内での創業やビジネスマッチング、環境サ

ポーターズへの協力など、“人”の流れを活かした“まちづくり”を進め、世界に誇れる持続可能な「環境観光都市　妙高」の実現を図る。



（将来的な自走に向けた取組）

市の総合計画・SDGs 推進本部を中心に、三側面のバランスの調整を図るとともに、民間事業者や各種団体等と連携しながら運用していく。資金面においても、入域料だけでなくクラウドファインディング等の民間資金を活用しながら、将来にわたって持続可能なサイクルを構築する。

（6）資金スキーム

（総事業費）

3年間（2020～2022 年）総額：972,514 千円

（千円）

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2020 年度	144,719	118,479	5,294	37,013	305,505
2021 年度	133,594	251,595	5,294	8,900	399,383
2022 年度	133,594	119,838	5,294	8,900	267,626
計	411,907	489,912	15,882	54,813	972,514

（活用予定の支援施策）

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額（千円）	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金（内閣府）	2020～	122,672	ワーケーションの推進に向けた体制の構築やプログラムの開発・プロモーション等のソフト事業、ワーケーションの誘致に向けた公共施設の改修整備に活用予定

（民間投資等）

行政や民間事業者、地域住民等の役割を明確にし、行政負担の妥当性を見極めるとともに、ガバメントクラウドファンディングなど可能な限り民間資金等の活用を図る。

(7)スケジュール

	取組名	2020 年度	2021 年度	2022 年度
統合	インバウンドを呼び込む活用実証	実施計画検討（～７月）→ モニター募集（８月）→ 実証（～10 月）→ 検証・本格実施（～３月）	観光商品として本格実施	
	ナショナルパーク MYOKO ポテンシャル調査	実施計画検討（～７月）→ 調査（～２月）→ 検証（～３月）	調査結果に基づき誘客施策検討	観光商品として本格実施
	効率的な入域料収受システムの開発	入域料の実施（有人）（７～10 月） 実施計画検討（～７月）→ システム開発（～３月）	システムの稼働 収受金を環境保全事業等に充当	
	環境保全型ワーケーションの試行実施	企業等との調整（～８月）→ 企業の受入れ（～11 月）→ 検証（～３月）	本格実施	
	官学連携による環境教育の実施	検討（～８月）→ 官学連携による活動、結果報告（～３月）	継続実施	
	SDGs の普及啓発	啓発事業の調整（～８月）→ イベント等の啓発事業の実施（～３月）	啓発事業の実施	

経済	山岳観光によるグリーンシーズンの誘客拡大	グランピングの実証実験（10 月） プロモーション、旅行商品の造成・イベント開催		
	地域資源を活かしたツーリズム等の推進	観光地域づくり法人や広域観光連携によるツーリズムの展開 （都市農村交流、スポーツ等の合宿誘致、健康保養地プログラム等）		
	ワーケーションを通じた外部人材の活用	体制構築（～４月）　ワーケーションプログラムの造成、ワーケーションの受入 テレワーク研修交流施設の整備（2022.5 供用開始予定）	ビジネスマッチングの推進	ワークシェアリングの推進
	民間事業者による国際観光リゾート開発の誘致	民間事業者との調整 民間事業者の誘致		
	妙高ブランドを高める六次産業化の推進	四季彩館みょうこうを活用した園芸作物等の販売拡大 加工用ブドウの品質向上、収量確保、商品販売支援		
社会	全てを支える住民主体の地域福祉づくり	モデル地域での地域運営組織の設立支援 地域主体の生活支援体制の構築	他地域への拡大	
	地域を牽引する担い手の育成	募集（～５月）　課題の検討（～９月）　市長への提言（10 月）　施策への反映 生命地域妙高環境会議と連携した環境教育の実施		

社会	地域住民と移住者の相互共生	ガイドブックの配布、交流会の開催		
	空き家等を活用した国内外からの移住・定住の促進	空き家登録制度への登録促進、住宅取得等の財政支援、空き家見学ツアーの開催		
環境	二酸化炭素排出量の抑制	電気自動車購入費補助等の検討（～３月） 焼却施設基幹改良工事の仕様書作成 行政庁舎の空調設備更新等の改修に係る実施設計（～３月） エコオフィス認定制度、エコアクション 21 支援プログラムでの認証取得支援 環境教育の実施 レジ袋有料化に伴うマイバック持参推進 PR マイバック持参による割引等実施店舗調査・PR	実施 改修工事（～2023 年度） 改修工事（2023 年度から供用開始予定）	
	地熱発電の導入に向けた調査研究	協議会（７～11 月） 視察会（８～10 月） 余剰熱利用検討（７～２月） 地表調査・解析（７～２月）	協議会、視察会、余剰熱利用検討 掘削調査	

環境	頸城山塊に生息するライチョウの保護対策	実施計画検討（～７月） 調査・保護（～３月） クラウドファンディング（10～12 月）	実施計画検討（～７月） クラウドファンディング（10～12 月） 調査・保護（～３月）	実施計画検討（～７月） クラウドファンディング（10～12 月） 調査・保護（～３月）
	環境サポーターズ等の協働による自然環境保全活動	スキルアップ講習会（７月） 火打山ライチョウ保護（８月） オオハンゴンソウ駆除（８月） いもり池スイレン駆除（９～10 月）	スキルアップ講習会 火打山ライチョウ保護 オオハンゴンソウ駆除 いもり池スイレン駆除 （７～10 月）	スキルアップ講習会 火打山ライチョウ保護 オオハンゴンソウ駆除 いもり池スイレン駆除 （７～10 月）
	地域自然資産法に基づく入域料の実施	検討部会（５月） 検討部会（12 月） 入域料事業の実施（７～10 月）	検討部会（５月、12 月） 入域料事業の実施 （７～10 月）	検討部会（５月、12 月） 入域料事業の実施 （７～10 月）

2020 年度 SDGs 未来都市全体計画提案概要（提案様式2）

提案全体のタイトル：人、自然、全ての生命が輝くまち「生命地域　妙高」の創造　｜　**提案者名：新潟県妙高市**

全体計画の概要：

妙高山麓の豊かな自然資源の恩恵により成り立つ妙高市を持続可能なまちとするため、人と自然のつながりを大切にし、全ての生命が輝き、安心して生命を育むことができる「生命地域の創造」をまちづくりの理念とし、方向性を同じくするSDGsの考えを市の施策に取り入れながら、未来に向けた成長戦略を実行する。

1. 将来ビジョン

地域の実態

主産業である電子機器産業や観光産業の業績の低迷により、東京圏や隣接市への若者の流出が拡大し、少子化、生産年齢人口の減少が加速する一方、高齢者人口が全体の 33.9％を占める超高齢社会を迎えている。

2030 年のあるべき姿

国立公園等の自然環境の保全、自然資源を活かした観光産業を基軸とした地域経済の活性化、住みよい地域共生社会の構築と移住・定住の促進など、自然、経済、社会の調和を図り、持続可能な都市を創造する。

2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

ゴール⑧⑨　自然資源を活かした観光産業を基軸とした地域経済の活性化
ゴール③④⑪⑰　生涯にわたって元気に活躍できる地域共生社会の構築と移住定住の促進による地域の担い手の確保
ゴール④⑬⑮⑰　国立公園等の豊かな自然環境の保全と次の時代への継承

2. 自治体SDGsの推進に資する取組

自治体SDGsに資する取組

ゴール⑥⑪　持続可能な行政経営の推進
ゴール④⑰　未来を担う子ども・若者の育成
ゴール⑪⑰　地域共生社会の構築
ゴール⑧⑨　地域産業の高付加価値化

情報発信

【域内】幼児期からの SDGs 教育の実施
市のまちづくりと SDGs の取組の啓発
【域外】入域料寄附者への SDGs の取組の PR
観光客、移住者、イベント参加者等への SDGs の取組の PR
【海外】海外向けプロモーションでの発信

普及展開性

・総合計画の中で施策と SDGs の相関関係を明確にすることで、三側面のバランスの調和など地方創生 SDGs の推進と目標達成を図る。
・周辺自治体や類似自治体への波及効果も期待されることから、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームを通じて普及展開を図る。

3. 推進体制

各種計画への反映

【第３次妙高市総合計画】
総合計画の各施策と SDGs の関係性を明確にした計画を策定済み（議会議決 R1. 12 月）
【第２次妙高市地球温暖化対策地域推進計画】
パリ協定の発効や SDGs 採択後の国の地球温暖化対策計画を踏まえた計画を策定済み

行政体内部の執行体制

・「総合計画・SDGs 推進本部」を設け、庁内のトップダウンとボトムアップの調整を図りながら事業を進める。また、事務局による進行管理や総合計画審議会による施策評価を実施し、PDCA サイクルを通じて改善につなげていく。

ステークホルダーとの連携

【域内外】持続可能な社会の基盤となる地域運営組織と、首都圏企業・人材を関係人口として一体になって取り組む
【国内】地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームでの情報共有と連携の推進
【海外】海外姉妹都市・交流小学校への普及

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・ワーケーション等をきっかけとして妙高市に訪れる首都圏等企業やフリーランスの人材と地元企業とを金融機関（地域商社）等を通じて結び付け、経営・事業展開上の課題解決や事業革新につなげ、民間企業の地方創生 SDGs の推進を地域の活性化につなげていく仕組みを構築

2020 年度自治体SDGsモデル事業提案概要（提案様式3）

自治体SDGsモデル事業名：	提案者名：
世界に誇れる持続可能な「環境観光都市　MYOKO」の実現	新潟県妙高市

取組内容の概要：

　世界的な製造業の低迷が続く中、妙高市の社会経済を持続させていくには、強みであり伸び代のある観光産業の再生が鍵である。2015 年に分離独立した妙高戸隠連山国立公園などの自然資源の保全と、観光資源の適切な活用を図り、インバウンドを呼び込むことのできる世界に誇れる持続可能な「環境観光都市　妙高」の実現を目指す。

経済

【経済面の課題】

1. **観光客の減少と観光産業の衰退**
2. **地域産業の担い手不足**

【具体的な取組】

1-1 山岳観光によるグリーンシーズンの誘客拡大

1-2 地域資源を活かしたツーリズム等の推進

2-1 ワーケーションを通じた外部人材の活用

2-2 民間事業者による国際観光リゾート開発の誘致

2-3 妙高ブランドを高める六次産業化の推進

経済面の相乗効果①
移住者の拡大

社会面の相乗効果①
新たな事業連携の創出

社会

【社会面の課題】

3. **首都圏等への若年層の流出等による地域組織の担い手不足**
4. **管理不全な特定空き家の増加**

【具体的な取組】

3-1 全てを支える住民主体の地域福祉づくり

3-2 地域を牽引する担い手の育成

3-3 地域住民と移住者の相互共生

3-4、4-1 空き家等を活用した国内外からの移住・定住の促進

三側面をつなぐ統合的取組
「まち・ひと・自然の好循環サイクルの実現」

インバウンドを呼び込むナショナルパークの活用

①インバウンドを呼び込む活用実証

②ナショナルパーク MYOKO ポテンシャル調査

持続する環境保全体制の構築

③効率的な入域料収受システムの開発

④環境保全型ワーケーションの試行実施

環境保全・生物多様性を研究・教育による人材育成【定額補助】

⑤官学連携による環境教育の実施

環境面の相乗効果①
自然資源の磨き上げによる交流人口の拡大

経済面の相乗効果②
環境保全活動のための財源確保
観光資源としての適切な保全

環境

【環境面の課題】

5. **地球温暖化を起因とした生態系等への影響**
6. **担い手不足による環境保全活動の縮小**

【具体的な取組】

5-1 二酸化炭素排出量の抑制

5-2 地熱発電の導入に向けた調査研究

5-3 頸城山塊に生息するライチョウの保護対策

6-1 環境サポーターズ等の協働による自然環境保全活動

6-2 地域自然資産法に基づく入域料の実施

環境面の相乗効果②
二地域居住による空き家等の解消

社会面の相乗効果②
環境保全活動への参画

≪参考資料一覧≫

参考資料１：第 3 次妙高市総合計画（抜粋）

参考資料２：入域料チラシ

参考資料３：妙高版ワーケーション紹介資料

参考資料１

第３次妙高市総合計画

妙高版総合戦略（第２版）

新潟県妙高市

第３章　目指すまちの姿

第１節　まちづくりの基本理念（将来像）

生 命 地 域 の 創 造
～人、自然、全ての「生命」が輝く妙高～

妙高山麓に広がる本市には、豊かな自然環境をはじめ、積み重ねられてきた歴史、培われてきた文化など、ゆったりと豊かな暮らしのできる素晴らしい自然の恵みが、令和の現代になっても今なお残されています。

地球に生命が誕生して以来、受け継がれてきた生命の連鎖。私たちは、尊い生命をいただいたことに感謝し、おかげさまの精神で、このかけがえのない自然の恵みを守ってきました。

しかしながら、人口減少による過疎化や若者の流出、少子化など、私たちを取り巻く生活環境が大きく変わり、次の時代を見通すことが難しい新たな局面を迎えている中、本市が住みよい地域であり続けるためには、身体と大地とは一体であるという「身土不二」の考えのもと、「生命地域の創造」というまちづくりの目指す方向を、今一度、市民の皆様と共有していくことが必要です。そして、今こそ、地域住民自らが主役となるための意識変革を促すとともに、地域資源の魅力をさらに磨きあげ、新しい時代の流れを力に、妙高を未来に向けて持続可能な都市に創り上げていく覚悟が必要です。

そこで、ふるさと妙高を想う人と豊かな自然のつながりを大切にし、全ての「生命」が輝き、真の豊かさを実感でき、安心して「生命」を育むことができる「生命地域の創造」をあらためて基本理念に掲げ、次の時代につなぐまちづくりに取り組んでいきます。

第２節　持続可能なまちづくりの実現に向けて

「生命地域の創造」をまちづくりの基本理念に掲げ、次の時代につなぐまちづくりを進めていく本市の考え方は、平成 27 年 9 月に国連総会が採択した「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の宣言の目指すべき方向性と同じであると考えています。そして、その宣言の中核が 2030 年を期限とする 17 のゴールからなる SDGs です。

本市においても、今までの常識では認識できないほどのスピードで人口減少と少子高齢化が進行し、現役世代の人口が急減する大きな課題に直面する中、社会、経済、環境を維持し、次の時代に引き継いでいくため、教育や保健、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズから、インフラ、消費、産業などの経済成長、そして、気候変動や環境保護など様々な課題に取り組む SDGs と、本計画で位置付けた施策との関係性を明確にしながら、持続可能な成長戦略につながる施策を実行していきます。

◆SDGｓの 17 のゴールと自治体行政の関係

ゴール（目標）	自治体行政の果たし得る役割
	1. 貧困をなくそう 自治体行政は貧困で生活に苦しむ人々を支援する上で最も適したポジションにいます。各自治体において、すべての市民が必要最低限の暮らしを確保することができるよう、きめ細やかな支援策が求められています。
	2. 飢餓をゼロに 自治体は土地や水資源を含む自然資産を活用して農業や畜産などの食料生産の支援を行うことが可能です。そのためにも適切な土地利用計画が不可欠です。公的・私的な土地で都市農業を含む食料生産活動を推進し、安全な食料確保に貢献することもできます。
	3. すべての人に健康と福祉を 住民の健康維持は自治体の保健福祉行政の根幹です。国民皆保険制度の運営も住民の健康維持に貢献しています。都市環境を良好に保つことが住民の健康状態を維持・改善に必要であるという研究も報告されています。
	4. 質の高い教育をみんなに 教育の中でも特に義務教育等の初等教育においては自治体が果たすべき役割は非常に大きいといえます。地域住民の知的レベルを引き上げるためにも、学校教育と社会教育の両面における自治体行政の取組は重要です。
	5. ジェンダー平等を実現しよう 自治体による女性や子供等の弱者の人権を守る取組は大変重要です。また、自治体行政や社会システムにジェンダー平等を反映させるために、行政職員や審議会委員等における女性の割合を増やすのも重要な取組といえます。
	6. 安全な水とトイレを世界中に 安全で清潔な水へのアクセスは住民の日常生活を支える基盤です。水道事業は自治体の行政サービスとして提供されることが多く、水源地の環境保全を通して水質を良好に保つことも自治体の大事な責務です。
	7. エネルギーをみんなに　そしてクリーンに 公共建築物に対して率先して省エネや再エネ利用を推進するほか、住民が省・再エネ対策を推進するのを支援する等、安価かつ効率的で信頼性の高い持続可能なエネルギー源利用のアクセスを増やすことも自治体の大きな役割といえます。
	8. 働きがいも経済成長も 自治体は経済成長戦略の策定を通して地域経済の活性化や雇用の創出に直接的に関与することができます。また、勤務環境の改善や社会サービスの制度整備を通して労働者の待遇を改善することも可能な立場にあります。
	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 自治体は地域のインフラ整備に対して極めて大きな役割を有しています。地域経済の活性化戦略の中に、地元企業の支援などを盛り込むことで新たな産業や新しい価値を創出することにも貢献することができます。

ゴール（目標）	自治体行政の果たし得る役割
	10. 人や国の不平等をなくそう 差別や偏見の解消を推進する上でも自治体は主導的な役割を担うことができます。少数意見を吸い上げつつ、不公平・不平等のないまちづくりを行うことが求められています。
	11. 住み続けられるまちづくりを 誰一人取り残されることなく、安全・安心に暮らすことができる強靭で持続可能なまちづくりを進めることは首長や自治体行政職員にとって究極的な目標であり、存在理由そのものです。都市化が進む世界の中で自治体行政の果たし得る役割は益々大きくなっています。
	12. つくる責任　つかう責任 環境負荷削減を進める上で持続可能な生産と消費は非常に重要なテーマです。これを推進するためには市民一人ひとりの意識や行動を見直す必要があります。省エネや 3R の徹底など、市民対象の環境教育などを行うことで自治体はこの流れを加速させることが可能です。
	13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動問題は年々深刻化し、既に多くの形でその影響は顕在化しています。従来の温室効果ガス削減といった緩和策だけでなく、気候変動に備えた適応策の検討と策定を各自治体で行うことが求められています。
	14. 海の豊かさを守ろう 海洋汚染の原因の 8 割は陸上の活動に起因していると言われています。まちの中で発生した汚染が河川等を通して海洋に流れ出ることがないように、臨海都市だけでなくすべての自治体で汚染対策を講じることが重要です。
	15. 陸の豊かさも守ろう 自然生態系の保護と土地利用計画は密接な関係があり、自治体が大きな役割を有するといえます。自然資産を広域に保護するためには、自治体単独で対策を講じるのではなく、国や周辺自治体、その他関係者との連携が不可欠です。
	16. 平和と公正をすべての人に 平和で公正な社会を作る上でも自治体は大きな責務を負っています。地域内の多くの市民の参画を促して参加型の行政を推進して、暴力や犯罪を減らすのも自治体の役割といえます。
	17. パートナーシップで目標を達成しよう 自治体は公的／民間セクター、市民、NGO／NPO などの多くの関係者を結び付け、パートナーシップの推進を担う中核的な存在になり得ます。持続可能な世界を構築していく上で多様な主体の協力関係を築くことは極めて重要です。

※「私たちのまちにとっての SDGs（持続可能な開発目標）-導入のためのガイドライン- 2018 年 3 月版（第 2 版）」
（自治体 SDGs ガイドライン検討委員会編集）を参考に作成

◆施策と重点プロジェクト・戦略目標等との関連表（参考資料）

大綱		基本施策	
1	快適で安全・安心に暮らせるまちづくり	1	生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】
		2	安全・安心な地域社会づくり【安全・安心】
2	美しい自然と共に生きるまちづくり	1	豊かな生活環境づくり【環境保全】
3	にぎわいと交流を生みだすまちづくり	1	世界に誇れる観光地域づくり【交流促進】
		2	活力ある地域経済づくり【産業振興】
4	全ての人が元気に活躍できるまちづくり	1	市民主体の健康づくり【健康・医療】
		2	全てを支える地域福祉づくり【福祉介護】
		3	住民主体の地域づくり【地域づくり】
		4	全てが平等な地域社会づくり【人権】
5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり	1	安心して子どもを育てられる環境づくり【子育て】
		2	質の高い教育環境づくり【教育】
		3	豊かな心身をつくる環境づくり【生涯学習・スポーツ】
		4	郷土愛を育む文化のまちづくり【文化】

主要施策		重点プロジェクト				戦略目標		SDGsのゴール（目標）番号
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	
1	コンパクトなまちづくりの推進	●						9,11,17
2	スマートシティ妙高の推進	●						8,9,11,17
3	道路ネットワークの強化							9,11
4	雪に強いまちづくりの推進							9,11
5	安全で安定したガス上下水道の維持							6,9,11
1	防災体制の確立							11,13
2	安全な市民生活の確保							3,11,16
1	自然環境の保全と活用				●			3,11,12,13,14,15
2	地球温暖化対策の推進							7,11,12,13
3	資源循環のまちづくりの推進							11,12,13
1	観光地域づくりの実践				●			8,9,11,17
2	国際観光都市としての基盤整備				●			8,9,11,17
1	商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出							8,9,11
2	安定して働きやすい雇用の創出		●			●		4,5,8,9,10
3	持続可能な農業の振興							2,8,9,17
1	健康づくりの推進			●				3
2	地域医療体制の確保							3
1	介護予防・高齢者福祉の充実			●				3,10
2	障がい者福祉の充実							3,8,10
3	生活困窮者等の自立支援							1,3,10
1	地域コミュニティの維持･再生		●					11,17
2	移住・定住による地域の維持					●		8,11,17
1	人権意識の向上							4,5,10,16
1	結婚・出産・子育て支援の充実						●	1,3,4,16
2	幼児の教育・保育環境の充実						●	2,3,4,8
1	健やかな心と体の育成							2,3,4
2	確かな学力の定着に向けた支援		●					4
3	学習環境の整備							1,4
1	人生100年時代の生涯学習の推進		●					4,11
2	生涯を通じたスポーツ活動の推進							3,11,17
1	歴史文化資源の保存と活用							4,11,17

参考資料２

アメリカのニュースネットワーク・CNN「日本の最も美しい場所31選」
火打山の高谷池

妙高山・火打山

自然環境保全のための協力金をお願いします。

妙高山・火打山を登山される方へお願い

妙高山・火打山の美しい自然を、
次の世代に継承していくため、
適切な保全管理が求められています。
このたび、妙高山・火打山に
登られる方から自然環境保全にかかる
500円の協力金を任意でお願いしています。
いただいた協力金は、妙高山・火打山の
自然環境保全などに活用させていただきます。
皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

協力金
500円
を納入していただくと、
協力記念品をお渡しします。

1,000円を納入していただくと、
ライチョウのピンバッジも！！

景品応募シート記載で
抽選でペア５組に
妙高高原温泉郷の宿泊券が
当たる！

生命地域妙高環境会議
（妙高市環境生活課内）
〒944-8686 新潟県妙高市栄町5-1
TEL:0255-74-0033　FAX:0255-73-8206

環境省自然環境局国立公園課

協力金の使途目的について

ライチョウの生態調査、保全活動

環境省と妙高市は、専門家と協力してライチョウの生息状況調査を継続してきました。しかし、生息数は減少傾向が続いており地域絶滅のおそれが生じています。また、ここ40年でライチョウに不利と考えられる植生変化が起きており、協力金を活用して植生回復をはじめとした生息環境保全活動を実施していきます。

登山道の維持管理

妙高山・火打山では、行政機関・民間団体の相互協力により登山道の維持管理を行っています。しかし、登山道の総延長が長く、十分な管理を行うことができていない状況です。今後も利用者の皆さまに登山道を安全かつ快適に利用していただくため、整備や維持管理に協力金を活用していきます。※協力金の一部は、事務費として使用します。

協力金の受付について

〇実施期間：令和元年7月1日(月)～10月31日(木)

※天候等の事情により、変更となる場合がございます。

〇実施時間：AM5：00－PM5：00

※実施場所の状況により、異なります。

〇受付方法：係員及び募金箱、電子決済による収受

〇実施場所：笹ヶ峰、燕温泉、新赤倉登山口の3箇所

納入すると

500円で協力記念品を

1,000円でライチョウピンバッジを

お渡しします。

受付場所

【笹ヶ峰登山口】

【燕温泉登山口】

【新赤倉登山口】

注意事項

人命等の異常気象時及び道路状況が危険な場合は、協力金の受付を中止する場合がございます。

協力記念品を妙高市のお店で見せると、特典が受けられます！※割引サービス期間7/1(月)～10/31(木)

店名	サービス内容	住所	電話番号
ペンションマイルポスト	宿泊代500円OFF	妙高市大字二俣1526	0255-87-3414
妙高・山里の湯宿　香風館	入浴料200円OFF 大人700円→500円　子供500円→300円 12時～17時	妙高市大字関川643-11	0255-86-2046
空飛ブウサギ	宿泊者は1ドリンクサービス	妙高市杉野沢229-2	0255-86-6969
道の駅あらい　くびき野情報館	ホットコーヒー150円→100円　ソフトアイス250円→200円	妙高市大字猪野山58-1	0255-70-1021
休暇村妙高	入浴料　500円→250円　利用時間13：00～17：00	妙高市関山6087-10-1	0255-82-3168
ロッヂ・ラー	朝食　コーヒー付　夕食　地ビール330ｍｌ付	妙高市大字関川2436-22	0255-86-4171
四季彩館ひだなん	レストランにてご利用者　レジにて10%OFF／1レジ	妙高市猪野山58-1(道の駅あらい内)	0255-70-5252
お宿ふるや	入浴料300円OFF　人(800円→500円)　宿泊料1,000円OFF／人	妙高市赤倉549-6	0255-87-2102
白銀館	ビール大1本サービス(2名で)　4人→2本	妙高市杉野沢1963-1	0255-86-6031
エコーロッヂ	缶ビール350ｍｌ又はソフトドリンクサービス	妙高市杉野沢2968	0255-86-6259
ホテル太閤	入浴料800円→700円	妙高市赤倉402	0255-70-4195
ペンションスノーグース	ご宿泊夕食時缶ビール1本又はウーロン茶1杯／1人 サービス	妙高市関川2226-6	0255-86-3992
旅館　田端屋	宿泊代5%引き 1泊2食7,700円→7,300円　苗名の湯450円→300円で入浴可能	妙高市杉野沢2468	0255-86-6108
中華料理　大来	麺類、ご飯類50円引き	妙高市田口145	0255-86-3371
北国街道・関川の関所　道の歴史館	入館料50円OFF／人　(500円→450円)	妙高市大字関川272	0255-86-3280
ホテル花文	入浴料 400円→300円	妙高市燕温泉	0255-82-3136

東京から北陸新幹線で上越妙高駅まで１時間 50 分。
国立公園に代表される大自然のフィールドへ。

「遊ぶ」も「働く」も諦めたくない。
自分の働き方を見つめ直したい。
あたらしい人材の育て方を探したい。
妙高市なら、あります。

Myoko-Workation-Style

ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

妙高市
Myoko City

はじめまして。妙高市です。

Myoko City Introduction

新潟県妙高市【みょうこうし】

総人口 31,978 人 (R1.10.31 現在)
世帯数 12,354 世帯 (R1.10.31 現在)
新潟県南西部、長野県と隣接、「妙高高原」一帯は観光地。
面積 445.52km2 は、県土のおよそ 3.5% にあたる。
東西 33.7km/ 南北 30.1km
周囲の長さ：186.2km

雪・四季。８つのスキー場。日本でも有数の豪雪地帯

雄大な自然。妙高戸隠連山国立公園が広がる

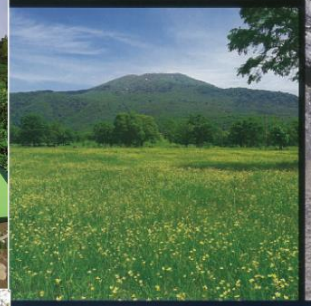
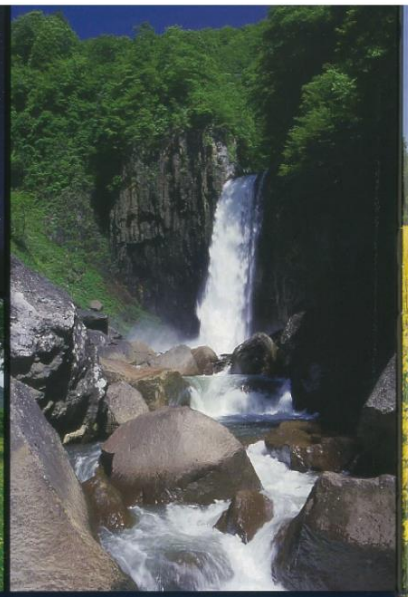
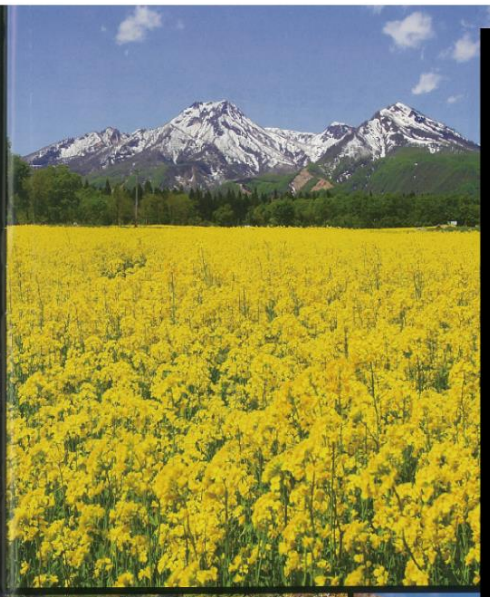
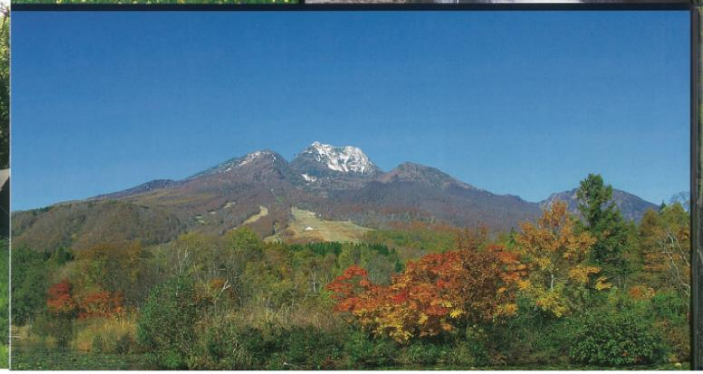
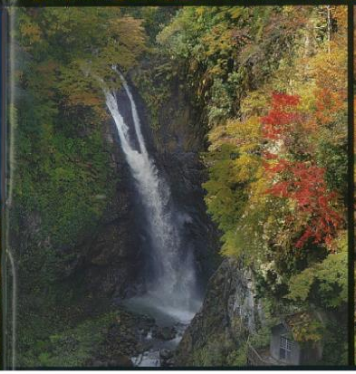
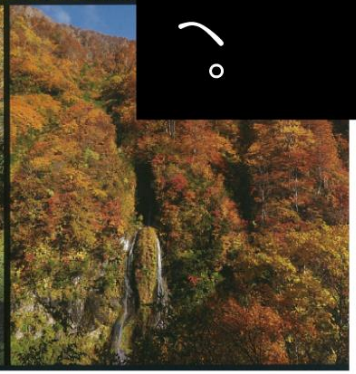
海と山の幸。新潟ならではのおいしい米とお酒

美肌の湯。市内で７つの温泉地、５つの泉質。３つの湯色

手つかずの自然がありながら、東京から北陸新幹線で１時間 50 分の近さ。

Myoko-Workation-Style

ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

言いようもなく、美しく、楽しい。

人と自然を結ぶ
国際理想都（リゾート）「妙高（みょうこう）」へ。

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

FLOWER＊CALENDAR

花カレンダー

妙高高原一帯に咲く山里の花、山を彩る高山植物。
各所に咲く花々が妙高の季節を飾る。

ミズバショウ
（4月中旬～5月中旬）
見られる場所：いもり池・夢見平など

リュウキンカ
（4月中旬～5月中旬）
見られる場所：沼の原湿原・笹ヶ峰など

キクザキイチゲ
（4月下旬～5月中旬）
見られる場所：笹ヶ峰・夢見平など

シラネアオイ
（5月中旬～6月上旬）
見られる場所：燕温泉・笹ヶ峰など

ズミ
（5月中旬～6月上旬）
見られる場所：いもり池・夢見平など

カタクリ
（4月下旬～5月下旬）
見られる場所：斐太歴史の里など

ミツガシワ
（5月上旬～6月下旬）
見られる場所：いもり池・沼の原湿原など

菜の花
（5月中旬～6月中旬）
見られる場所：大洞原

ノリウツギ
（6月下旬～8月上旬）
見られる場所：いもり池・火打山

キンポウゲ
（6月下旬～7月中旬）
見られる場所：笹ヶ峰牧場

ひまわり
（8月上旬～8月下旬）
見られる場所：大洞原

サワギキョウ
（8月上旬～9月上旬）
見られる場所：いもり池・夢見平

ヤマトリカブト
（8月下旬～9月中旬）
見られる場所：笹ヶ峰・夢見平など

サラシナショウマ
（8月下旬～9月下旬）
見られる場所：笹ヶ峰・夢見平など

リンドウ
（9月～10月）
見られる場所：かやば草原

ウメバチソウ
（9月下旬～10月中旬）
見られる場所：スカイケーブル終点から上部

森林セラピーロード
科学的にも効果が実証されたセラピーロード。妙高には6コースある。

歩こう♪ 歩こう♪ 森で元気に！

［上］標高1,300メートルに位置する笹ヶ峰高原。のんびりと過ごす牛たちの姿を見られる笹ヶ峰牧場を中心に、バリエーション豊富なコースが設定されている。
［下］クリスマスツリーとして利用されることも多いドイツトウヒの林。樹高20メートルもの木々が作る林は、森林浴効果満点。

笹ヶ峰一周歩道 モデルコース

1 笹ヶ峰グリーンハウス
▼ 徒歩で約35分
2 笹ヶ峰神社
▼ 徒歩で約5分
3 宇棚の清水
▼ 徒歩で約20分
4 清水ヶ池
▼ 徒歩で約45分
5 ドイツトウヒの林
▼ 徒歩で約30分
6 仙人池
▼ 徒歩で約50分
7 笹ヶ峰グリーンハウス

◎【所要時間】約3時間5分
※滞在時間は含んでいません。

高原の名水として知られ、平成の名水百選にも認定された「宇棚（うだな）の清水」。四季を通じて水量豊富な水辺には、遊歩道や桟橋、水くみ場も設置。きれいな水場に生育する野生のクレソンの姿も見られる。

宇棚の清水が流れ込む清水ヶ池。宇棚の清水からの道筋には、多くの高山植物が生育し、春から夏にかけて美しい花々を鑑賞できる。また、三田原山を湖面に映す清水ヶ池は、秋には紅葉狩りの絶好のスポットに。

天上の楽園「天狗の庭」
火打山山頂近くの湿原「天狗の庭」には、ワタスゲやハクサンコザクラなどの群落が。

AR

高山植物が招く美しい峰へ。クアオルトの聖地 森林セラピー基地 森林セラピーロード

登山&トレッキング

妙高山、火打山の2つの百名山への登山、笹ヶ峰高原を中心としたとトレッキングなど、雄大で豊かな自然と触れ合える妙高高原。四季折々の風景が楽しめる魅力的なコースが整備されている。（左：夢見平遊歩道）
問妙高市観光協会 ☎0255-86-3911

（上）高谷池、天狗の庭の湿原に咲くハクサンコザクラ。6月下旬から7月にかけて紫色の花を付ける。
（下）火打山・焼山周辺は、国内のライチョウ生息地の北限とされる。

MYOKO RESORT STORY

「日本百名山」名峰・妙高山

「日本百名山」は、文筆家であり登山家でもあった深田久弥が、自らの登山経験をもとに選んだ百峰を描いた山岳随筆。1964年に初版が発行されたこの本の中で、妙高山をこう表している。「妙高山は越後富士とも称される。その均整のとれた山容の気品と言い、のびやかな裾野の雄大さと言い、名山としての名に恥じない」。仏教用語で「須弥山（しゅみせん）」、世界の中心の山ともいわれ、左右に神奈山、赤倉山などを従えた姿は漢字の「山」の文字にも見え、まさに山の中の山。古くから敬われ、親しまれてきた名峰である。

「日本百名山」の著者・深田久弥（一九〇三―一九七一）が同著書の中で表したように、妙高山は噴火によって生まれた山らしい、雄大で気品のある山裾を持つ。同じ百名山のひとつ、火打山は高山植物に彩られ、高谷池、天狗の庭周辺の花咲く湿原は天上の楽園とも評される。

妙高の魅力は、美しく豊かな大自然に手軽に触れられることにある。ダイナミックな自然を体験できる登山はもちろん、トレッキングにも最適なコースが用意されている。森林医学の面からリラックス効果が実証されると、認定を受けられる「森林セラピー®基地」。妙高はそのひとつに選ばれており、市内には6つのセラピーロードが設定されている。

山道を歩き、森の香りに癒やされ、妙高の自然の懐に抱かれることで、自然と一体になれる楽しさを満喫したい。

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

大自然で楽しむ爽快なアクティビティ！

キャンプ、ゴルフ、テニス
ジップライン、ツリーアドベンチャー、チュービング…
そして、８つのスノーエリアへ！

滑って、はしゃいで雪と遊ぼう！

ふかふかの雪の中を滑る喜び。"ビッグ・スノー"の妙高は、いつでも雪と遊ぶ快感に満ちている。

「ビッグ・スノー！」。海外から訪れたスキーヤーやスノーボーダーが発する言葉だ。豊富な積雪量と雪質の良さ、新雪を滑る快感に満ちたフィールドへの賛辞は、妙高の自然のすばらしさへの評価でもある。

また古くからスノーリゾートとして発展してきた妙高には、訪れる人に雪と遊ぶ楽しさを提供してきた積み重ねがある。日本の公認リフト第一号、日本初のナイター照明など数々のエピソードが示す先進性とともてなしの心。充実した施設や設備と、誰もが安心して楽しめるホスピタリティーが、冬の妙高を魅力的にしている。

[上]4メートル近い積雪とパウダースノーで人気の関温泉スキー場。[左]ハーフパイプ、テールトップなどを備えた、スノーパークを設置しているスキー場も多い。スケールの大きなフィールドで、思う存分雪と遊ぼう。

斑尾高原スキー場
マダラオコウゲンスキージョウ

初級から上級まで楽しめるコースや、森の中を滑るツリーランコースが人気。キッズパークも用意されている。

長野県飯山市斑尾高原 ☎0269-64-3214
上信越道妙高高原ICより車約30分
http://www.madarao.jp/ski/

赤倉観光リゾートスキー場
アカクラカンコウリゾートスキージョウ

巨大なスノーマンがお出迎え。上・中・初級各コースのほか、そり遊びなどができる広場もあるリゾートムード満点のスキー場。

妙高市田切216 ☎0255-87-2503
上信越道妙高高原ICより車約8分
http://www.akr-ski.com/

妙高スキーパーク
ミョウコウスキーパーク

全長1.2キロ、平均斜度7度の緩やかな林間コースは、初心者、ファミリーも安心。マイペースで滑りを楽しめる。

妙高市関山6323-4 ☎0255-82-4189
上信越道中郷ICより車約14分
http://www.myoko-skipark.jp/

赤倉温泉スキー場
アカクラオンセンスキージョウ

3つのゲレンデで構成される、ビッグなスケール。ロマンチックな林間コース、遊びが充実のキッズエリアも人気。

妙高市赤倉温泉 ☎0255-87-2125
上信越道妙高高原ICより車約10分
http://www.akakura-ski.com/

池の平温泉スキー場
イケノタイラオンセンスキージョウ

中斜面が3キロ続く、日本屈指のワイドな1枚バーンと日本最大級のスノーボードパークが自慢のゲレンデ。

妙高市池の平温泉 ☎0255-86-2370
上信越道妙高高原ICより車約5分
http://www.ikenotaira.net/

妙高杉ノ原スキー場
ミョウコウスギノハラスキージョウ

「Sugi Park」はハーフパイプ含む35アイテム。三田原エリア上部はロングパウダーも堪える。小学生までリフト無料。

妙高市杉野沢 ☎0255-86-6211
上信越道妙高高原ICより車約10分
http://princehotels.co.jp/ski/myoko/

関温泉スキー場
セキオンセンスキージョウ

標高が高く、優れた雪質の"パウダーランド"は高い評価を得ている。シーズンも12月中旬～5月中旬とロングだ。

妙高市関温泉 ☎0255-82-2316
上信越道中郷ICより車約 5分
http://www.sekionsen.com/

休暇村妙高ルンルンスキー場
キュウカムラミョウコウルンルンスキージョウ

休暇村本館から徒歩0分でゲレンデ。プライベート感覚で、子ども・初心者のスキーデビューにもぴったり!

妙高市関山 ☎0255-82-3168
上信越道中郷ICより車約14分
http://www.qkamura.or.jp/ski/myoukou/

標高1,300メートルの休暇村妙高笹ヶ峰キャンプ場は、夏でも過ごしやすく、快適なキャンプが楽しめる。

妙高の雄大な景観の中で、思い思いの自然体験を

キャンプ

妙高山の麓に広がる休暇村妙高笹ヶ峰キャンプ場には、AC電源付きのオートサイト、フリーサイトがあり、炊事場など設備も整っている。

休暇村妙高 ☎0255-82-3168

爽やかな高原のゴルフ場で「ナイスショット」

ゴルフ

妙高高原には4つのゴルフ場があり、高原のロケーションを生かした戦略性に富んだコースと、妙高山を望む美しい景色が魅力だ。

妙高市観光協会
☎0255-86-3911

妙高山を望む人工クレイコート

テニス

妙高市内には公共のテニスコートが3カ所あり、中でも東赤倉テニスコートは県内初の人工クレイコートで、8面を備えている。

妙高市教育委員会
☎0255-74-0036

トレーニングに最適な爽快コース

ランニング

夏の妙高高原は、箱根駅伝常連校や実業団が集う合宿のメッカ。標高の高い笹ヶ峰高原のクロスカントリーコースは、準高地トレーニングにも最適。

妙高市観光協会 ☎0255-86-3911

夏でも涼しい笹ヶ峰高原など、ランニングに適したコースのある妙高高原。秋には、妙高市から飯山市まで走るトレイルランニングレースも開かれる。

森を滑空する人気アクティビティ

ジップラインアドベンチャー

斑尾高原では、木に渡したワイヤーロープを滑車で滑り下りるジップラインが人気。ターザン気分を味わえるアドベンチャー体験を。

斑尾高原観光協会
☎0269-64-3222

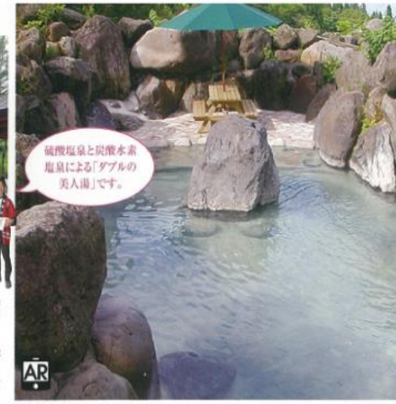
Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

妙高高原温泉郷。温泉ソムリエ家元がすすめる「七五三の湯」の楽しみ方

「温泉ソムリエ」発祥の地・妙高。家元の遠間さんに聞いた、妙高の温泉の魅力と楽しみ方とは——。妙高高原温泉郷には7つの温泉、5つの泉質、3つの湯色(透明を除く)があり、これを称して「七五三の湯」と言っています。これだけ多彩な温泉が集まっている温泉郷は全国でもまれですから、湯巡りを楽しんではいかがでしょう。7つの温泉は「美人の湯」という共通点があります。ただ、それぞれ泉質が違いますから、順番を考えて湯巡りすることをおすすめします。

例えば、弱い泉質からはじめて、強い泉質へと移っていくことなどですね。温泉には転地効果もありますから、温泉ごとの景観や環境も楽しみながら、ゆっくりと巡ってみてください。

温泉ソムリエ協会 家元
遠間和広さん
とおま・かずひろ
●赤倉温泉で旅館を営みながら、温泉の魅力を広める温泉伝道師。

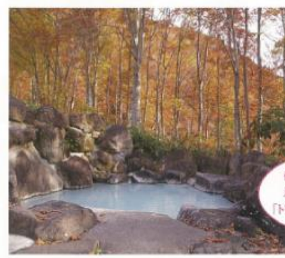


硫酸塩泉と炭酸水素塩泉による「ダブルの美人湯」です。

1 赤倉温泉 透明

江戸時代から続く温泉で、飲食店や土産物屋が軒を連ねる。温泉街の外れにある「野天風呂 滝の湯」は赤倉のシンボル。

泉質/カルシウム・ナトリウム・マグネシウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉
泉質別適応症/切り傷、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症など



2 燕温泉 白色

標高1,150メートルに位置する秘湯。惣滝、黄金の湯、河原の湯など、山の湯の魅力満点の温泉地。

泉質/含硫黄-カルシウム・ナトリウム・マグネシウム-炭酸水素塩・硫酸塩・塩化物泉　泉質別適応症/切り傷、冷え性、アトピー性皮膚炎など

[左]妙高山登山道の脇にある黄金の湯。絶好のロケーションの中で温泉を楽しめる。[上]黄金の湯からさらに登山道を進んだ川沿いにある河原の湯は、野趣満点。

硫黄泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉の「トリプル美人湯」です。

体の芯から温まり、湯冷めしにくい茶褐色の湯。各旅館では日帰り利用も受け付けている。

鉄分と塩分を含む茶褐色の湯は「温まりの湯」です。

3 関温泉 赤色

弘法大師が発見したと伝えられる温泉。標高900メートルに位置し、紅葉の時期には絶景を楽しめる。

泉質/ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩泉
泉質別適応症/切り傷、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症など

温泉ソムリエの入浴五カ条

その一
入浴前後に1杯ずつの水を飲むべし!

その二
入浴前には、足先など心臓の遠くから順に十分な「かけ湯」をすべし!

その三
頭にはぬれたタオルをのせるべし!

その四
一気に長湯せず、「分割浴」をすべし!

その五
疲労回復には、膝下の「温冷交互浴」が有効なり!

赤倉温泉と同じく「ダブルの美人湯」です。

標高1,000メートルに位置するリゾートホテルからは、雲海を見下ろす幻想的な風景が楽しめる。

4 新赤倉温泉 透明

高台のリゾートホテルエリア、森に囲まれたペンション街など、多彩な自然環境でも癒やされる温泉。

泉質/カルシウム・ナトリウム・マグネシウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉
泉質別適応症/切り傷、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症など

硫黄泉は黒泥を含む美人の湯。弱アルカリ性単純泉は優しい美人の湯。

5 池の平温泉 黒色 透明

いもり池の近くにあって、妙高山が望める、最も妙高高原らしい雰囲気を楽しめる温泉。

泉質/単純硫黄泉
泉質別適応症/アトピー性皮膚炎、慢性湿疹など

泉質/弱アルカリ性単純温泉
泉質別適応症/自律神経不安定症など

温泉街にある日帰り温泉施設では、透明な湯と黒い湯の2つの湯を体験できる。

6 杉野沢温泉 透明

苗名滝、笹ヶ峰高原、妙高杉ノ原スキー場への入口にある温泉。日帰り温泉施設で美人の湯を味わえる。

泉質/ナトリウム・カルシウム・マグネシウム-炭酸水素塩・塩化物泉
泉質別適応症/切り傷、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症など

炭酸水素泉でツルツル、塩化物泉で潤い。理想的な美人湯です。

1911年に赤倉温泉の分湯として開湯された妙高温泉。源泉から10キロもの距離を引湯している。

長い距離を引湯され、自然に湯もみされた優しい湯です。

7 妙高温泉 透明

妙高高原の玄関口、妙高高原駅近くにある温泉。透明なお湯は、さらりとした肌に優しい泉質。

泉質/弱アルカリ性単純温泉
泉質別適応症/自律神経不安定症、不眠症など

便利でお得な入浴券「湯めぐりチケット」

妙高高原温泉郷にある温浴施設で使える3枚綴りの共通入浴券。日帰り温泉施設、旅館など28施設で4月下旬～12月上旬まで利用できる。また各温泉の湯巡りには周遊バス「ぶらっと妙高号」(4月下旬～11月上旬・詳細は12ページ参照)を利用すると便利。

MYOKO RESORT STORY
お殿様にも愛された赤倉温泉

赤倉温泉の開湯は1816年(文化13年)。その2年前、1814年に地元の庄屋などが中心となり、越後高田藩主・榊原政令(さかきばら・まさのり)の許可を得て開発が始まった。源泉がある妙高山中腹の地獄谷から約7キロの距離を、500本もの大竹で継ぎ引湯したといわれる。開湯後は温泉奉行が置かれ、国内唯一の藩営温泉であったことから「殿様が造った温泉郷」とも呼ばれ、2016年には開湯200年を迎える赤倉温泉。高田藩のお殿様もつかったかもしれない温泉を、歴史のロマンを感じながらゆっくりと楽しみたい。

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

歴史・文化の香り豊か。
アートな気持ちをくすぐる。
高原の風景。
古代から江戸への歴史旅へ。

NATURE HISTORY
古代から江戸へ
北国街道歴史トリップ

空海も修業!?
霊山・妙高山
妙高山は山岳信仰の霊山とされ、空海もこの地で修業したと伝えられる。

妙高山信仰から生まれた1200年もの伝統ある祭り。伝統の祭と技を結晶する「俳山伏の棒遣い」は、県無形民俗文化財。

関山神社
奈良時代から妙高山を霊山と仰ぐ修験道の道場として繁栄。上杉謙信も信仰したといわれる。県指定文化財の石仏群や鰐の足裏を刻んだ仏足石も安置されている。
(当)妙高市関山4804　(問)妙高市観光協会　☎0255-86-3911

妙高市と上越市、長野市を結ぶ国道18号。江戸時代の北国街道を継承するこの道沿いの史跡を訪ねると、古代から江戸時代までのタイムトリップを楽しむことができる。

まずは古代。斐太遺跡は東北日本最大級の弥生時代の集落跡で、ほぼ当時のままの姿が残る貴重な遺跡として国指定史跡となっている。斐太遺跡に近接した鮫ヶ尾城跡は、上杉謙信の2人の養子、景勝と景虎が争い、景虎が非業の死を遂げた地として知られる。

また、関山神社(708年創建とも)は、霊山とされた妙高山の信仰の中心として絶大な権力を誇った。さらに国道を長野方面へと進み県境にさしかかると、北国街道の関所を復元した「関川関所 道の歴史館」がある。佐渡の金銀の輸送路でもあった北国街道でにらみをきかせた当時の関所の様子を、文献などで知ることができる。

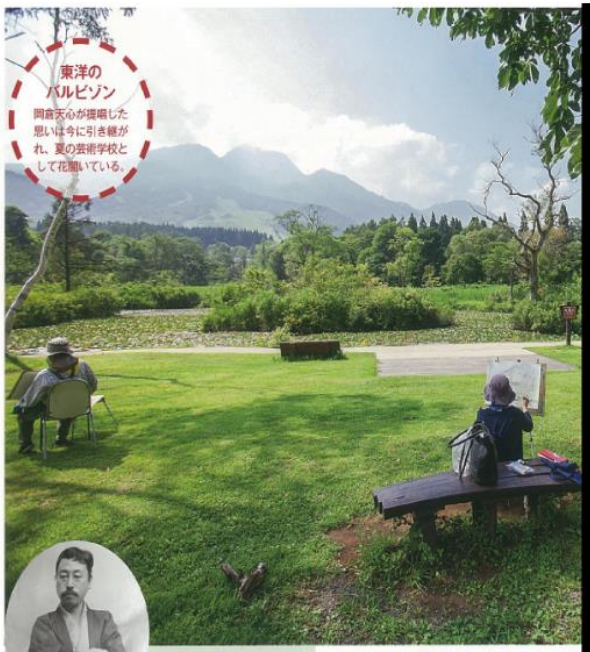
北国街道 関川関所 道の歴史館

北国街道の要衝であった関川の関所を再現。貴重な文献やジオラマが展示され、当時の様子がうかがえる。食事処では、名物の手打ちそばが好評。
(当)妙高市関川272　☎0255-86-3280

3つの時代の歴史ロマン ──斐太歴史の里

国指定史跡の「斐太遺跡」は、1800年ほど前の弥生時代後期後半に栄えた集落跡。約200軒もの竪穴建物跡があり、当時の遺跡としては東北日本最大規模。人為的な破壊がなく、集落全体がほぼ当時の状態で残っている。もうひとつの国指定史跡が観音平・天神堂古墳群。両地区合わせて170基以上の古墳がある北陸最大規模の古墳群。さらに近年、新潟県内最古級の前方後円墳が発見され、改めて注目を集めている。
(当)妙高市宮内241　(問)妙高市観光協会　☎0255-86-3911

上・鮫ヶ尾城跡は、上杉謙信亡き後、景勝と景虎が後継を争った「御館(おたて)の乱」で、景虎が自刃した地。多くの歴史ファンが訪れている。右・鉱墓式にも記録が残る古社・斐太神社。


東洋の
バルビゾン
岡倉天心が提唱した思いは今に引き継がれ、夏の芸術学校として花開いている。

岡倉天心 (1863-1913)
1890年に東京美術学校(現 東京芸術大学)の校長に就任。1896年に日本芸術院を創設するなど、日本の美術界をけん引した立役者。写真は日本美術院創立当時の岡倉天心(茨城県天心記念五浦美術館提供)

岡倉天心六角堂
ボストン美術館の中国・日本美術部長を務めていた際に体調を崩し、赤倉の山荘で静養中に逝去した岡倉天心。その別荘近くに建てられた六角堂は、天心らの調査によって歴史的価値を認められた法隆寺夢殿を模したものとされる。堂内には、天心の金色の座像が安置されている。

妙高には数多くの文化人が訪れているが、最初に世に知らしめたのは、「金色夜叉」で人気作家となっていた尾崎紅葉。1899年(明治32年)に赤倉温泉を訪れた時の様子を「煙霞療養」の中でこう書いている。『凡そ己の知る限に、此ほど山水の勝を占めた温泉場はない』。紅葉に賛辞を与えられた赤倉温泉には、その後、与謝野晶子、与謝野鉄幹、有島武郎などが訪れ、そのすばらしさを歌に詠んでいる。

1906年(明治39年)に訪れ「世界一の景勝地」と絶賛した岡倉天心は、この地を「東洋のバルビゾン」にしようという構想を描いた。ミレーをはじめ、多くの画家が活躍したフランスのバルビゾンに負けない芸術の発信地を目指して奔走。自らは赤倉に別荘を建てて晩年を過ごし、そして終焉をここで迎えた。天心の構想はかなわなかったが、その心は恒例のアートイベント「夏の芸術学校」などに引き継がれている。妙高山を中心に、北信濃の山々、日本海や佐渡まで見渡せる雄大な景勝地は、今も変わらずアートな心を刺激し続けている。

天心の夢をつむぐ ── 妙高アートイベント

妙高夏の芸術学校
毎年7月下旬に開催されるサマースクール。かつて天心が校長を務めた東京芸術大学などの講師が指導し、日本画、油彩画、水彩画、デッサンスケッチのコースに分かれ、一流の技術が学べる。
(問)妙高市観光協会　☎0255-86-3911。

妙高天心茶会
晩年を赤倉の山荘で過ごし、1913年(大正2年)に終焉を迎えた天心を偲び、その命日に行われる茶会。野点や一般茶会も開かれ、天心が残した「茶の心」を今に伝えている。
(問)妙高市観光協会　☎0255-86-3911
(当)赤倉天心山荘および天心六角堂周辺

妙高四季彩芸術展
妙高の魅力をテーマに、10月下旬に開かれる絵画と写真の全国公募展。応募者の力作が展示された会場では、作品に込められた妙高への思いを感じとれる。
(問)妙高芸術祭実行委員会事務局(生涯学習課内)　☎0255-72-5111

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

雪と大地が育んだ食・酒。バスで気軽に散策する名所。新潟ならではの美酒やお米。日本酒3酒造、かんずり。

NATURE × FOOD

雪と大地が育んだ妙高の味

日本有数の特別豪雪地帯、妙高。厳しい冬があるからこそ、自然はすてきな贈り物を届けてくれる。

雪でさらす発酵食品
トウガラシを使った妙高独自の発酵食品は、雪でさらされうま味を増す。

［上・右］妙高山を背景に、黄金色に色づいた稲穂が頭をたれる、実りの秋の風景。
［上・左］白い雪原にトウガラシの赤が映える「かんずり」の雪さらしは、妙高の冬の風物詩。
［下・左］高原の涼しい気候と、肥沃な土地に育まれた高原野菜。みずみずしく、甘みもたっぷりだ。

すべての命の源は水。水の良い土地には、豊かな恵みがもたらされる。豊富な雪解け水が、大地を隅々まで潤すことで、妙高には豊かな食と食文化が育まれてきた。

米をはじめとした農作物、水が品質を大きく左右する日本酒、そして雪にさらすことで味を深めるトウガラシを使った「かんずり」や味噌などの発酵食品。山菜やきのこなどの山の幸も、山々に降り積もる雪と、肥沃な大地によって与えられる妙高ならではの授かり物だ。

妙高・3つの酒蔵見学

君の井酒造(株)

江戸時代、天保年間(1830年～1843年)の創業。以来、妙高山麓の伏流水と良質な新潟米を使い、地元に愛され続ける美酒を醸してきた。「惜しみなく手をかけた酒造り」をモットーに、代表酒「君の井」をはじめ、高度な技術と長い時間を必要とする山廃(やまはい)仕込みの「越後の蔵秘伝」など、10の銘柄を作っている。

住妙高市下町3-11 ☎0255-72-3136
【酒蔵見学】要予約 休土・日・祝日(土曜は一部可・要問い合わせ) 料見学無料、試飲540円

千代の光酒造(株)

創業は1860年(万延元年)。当時から枯れたことがないという仕込み水は、妙高連峰を源とする井戸水。その豊かで清冽な水と、地元の農家と協力して育てる酒米を使って酒を醸す。標高200メートルと、新潟県内の酒蔵では比較的高地にあり、雪に覆われた冷涼な気候が、仕込みに適した環境を生み出す。

住妙高市大字窪松原656 ☎0255-72-2814
【酒蔵見学】営11月～3月 9時～16時(要予約)

鮎正宗酒造(株)

深い緑に包まれた山あいにあり、茅葺き屋根が風情を感じさせる酒蔵。酒造りに必要な水はすべて敷地内にわき出る水でまかなう。毎時6トンにも及ぶ豊富なわき水は、大地で自然にろ過されたミネラル成分の少ない軟水。やわらかな水質がそのまま酒にも生かされ、さらりとした、後口さわやかな酒を醸している。

住妙高市大字猿橋636 ☎0255-75-2231
【酒蔵見学】わき水見学・きき酒コーナーのみ
営10時～16時(要問い合わせ)

＼妙高のお土産はココで!／

道の駅あらい

地元野菜の販売やそばが味わえる「四季彩館 ひだなん」など、特産品の販売店や飲食店などが軒を連ねる道の駅。

住妙高市猪野山58-1
☎0255-70-1021(くびき野情報館) 営施設により異なる 休施設により異なる

妙高山麓直売センター とまと

妙高の高原野菜を豊富にそろえる直売所。特大盛りのそばが名物の飲食店も併設。

住妙高市関山6430-1
☎0255-82-2760
営9時～18時(10月～3月は17時まで)
休1月1日～1月4日

雪どけの清流で育つ「妙高米」

冬、妙高連峰に降り積もった雪は、ゆっくりと大地にしみ込み、川となって豊かな流れを作り出す。その清流の恵みと、日照時間が長く雨量の少ない夏の気候が、甘みのある、ふくよかな味わいのコシヒカリを育む。妙高米は、独特の食感が特徴の新潟のブランド米。

1 妙高高原、野尻湖や北信濃の山々など、大パノラマが楽しめる妙高スカイケーブル。
2 妙高山ウォッチングの一番の名所、いもり池。春夏秋冬、どの季節に訪れても妙高山の美しさは期待を裏切らない。
3 森林セラピー®ロードに認定されている、笹ヶ峰夢見平。緑の森で深呼吸をしてみよう。
4 ごう音とともにしぶきが舞う苗名滝。いもり池、笹ヶ峰と並ぶ妙高観光のメッカだ。

鉄道を利用して訪れる人たちや、のんびりとバス旅をしたい人のために、妙高高原には周遊バス、直行バスなどが運行されている。温泉や名所ごとに停留所があり、バスに乗れば主だった観光スポットを手軽に巡ることができる。車での来訪者にもバスは便利。湯巡りの途中で湯上がりのビール、名物グルメやランチと一緒にちょっと地酒を、そんな楽しみもバスならかなえてくれる。

時刻表を見ながらのんびりと巡るバスのプチ旅。車窓から見える雄大な妙高山や緑あふれる森も、じっくりと楽しめる。雄大な自然の中で、時間さえもゆったり流れる妙高では、バスの早さで巡るのが似合っているかもしれない。

名所めぐりコース

1 赤倉本通り
▼ ぶらっと妙高号で約20分
2 苗名滝
▼ ぶらっと妙高号で約10分
3 いもり池
▼ ぶらっと妙高号で約20分
4 スカイケーブル
▼ 徒歩で約3分
5 新赤倉三叉路
▼ 路線バス赤倉線で約1分
6 赤倉銀座
▼ 徒歩で約5分
7 赤倉本通り

○【所要時間】約1時間
※バスの乗車時間。滞在時間は含んでいません。

花と大自然コース

1 赤倉本通り
▼ ぶらっと妙高号で約10分
2 いもり池入口
▼ 笹ヶ峰直行バスで約40分
3 乙見湖
▼ 笹ヶ峰直行バスで約40分
4 いもり池入口
▼ ぶらっと妙高号で約25分
5 燕温泉
▼ ぶらっと妙高号で約15分
6 赤倉本通り

○【所要時間】約2時間10分
※バスの乗車時間。滞在時間は含んでいません。

バスを利用して妙高イイとこ巡り!

妙高高原エリアの各温泉と主な名所を巡る周遊バス「ぶらっと妙高号」は、1日乗り放題で、乗り降りも自由。チケットはバス内でも購入可能。

○ぶらっと妙高号(周遊バス)
【運行日】4月下旬～11月上旬 【料金】大人500円、小人300円

○笹ヶ峰直行バス
【運行日】6月の土・日及び7月1日～11月3日
【料金】妙高高原駅～笹ヶ峰 大人1,000円、小人500円

○路線バス 池の平・杉野沢線
【運行日】4月1日～11月30日
【料金】大人140円～510円

○路線バス 赤倉線
【運行日】通年(経路によって異なる)
【料金】大人140円～360円

問 頸南バス㈱ ☎0255-72-3139 妙高市観光協会 ☎0255-86-3911

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

スローな時間を過ごせるフィールドがある。
えちごトキめき鉄道で優雅な沿線列車旅
鉄道最高峰のローレル賞、グッドデザイン賞受賞
リゾート列車「雪月花」で贅沢な列車旅へ。
イベント列車「妙高温泉列車」

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

妙高市内・周辺の最近の主なトピックス

新たなスポットがオープン！

2017 年 12 月
ロッテアライリゾート
（Lotte Arai Resort）開業

2020 年 6 月
売上日本一の実績を誇る
道の駅あらいの拡張部分がオープン予定

妙高高原周辺での
観光開発プロジェクトが進行中

2018 年 6 月
水族館「うみがたり」
オープン（㈱横浜八景島運営）

北陸新幹線　上越妙高駅
ホテル、商業施設など
周辺の開発が進む

観光地の中心、いもり池付近で
テレワーク研修交流施設整備
を市が計画中

企業研修等にもプロフェッショナルに対応

- 妙高市を拠点に、大企業等に人材育成研修プログラムを提供しながら、都市部の企業で複業、テレワークなどこれからの仕事のあり方や働き方を実践している、ワーケーション企業研修プログラムコーディネーター NPO法人しごとのみらい理事長 竹内義晴氏により、ワーケーション訪問企業の社員様を対象に、「座学研修×自然体験」などによる多様な企業様向け研修プログラムを提供。
- 多様な人脈を生かし、企業人事様や社員様のニーズを踏まえ、高品質な企業研修を提供します。

社員のストレス対策、どうすればいいのだろう？

自ら考え行動する社員教育の必要性とコーチング

職場の課題を話し合いで解決するファシリテーション

世代間ギャップを縮めるコミュニケーション術

問題解決力を鍛えるチャート式ロジカルシンキング

座学研修 × 自然体験によるチームビルディング　など

ワーケーション企業研修プログラムコーディネーター

NPO法人しごとのみらい理事長　竹内 義晴氏

1971年生まれ。新潟県妙高市出身・在住。コミュニケーションの専門家。「仕事を楽しくする」が活動のテーマ。働きやすい会社を創ることによって、企業で生じている人間関係やコミュニケーションの問題を解決し、ビジネスパーソンが楽しく働けるよう、コミュニケーションの研修、講演、コーチング、カウンセリングに従事している。

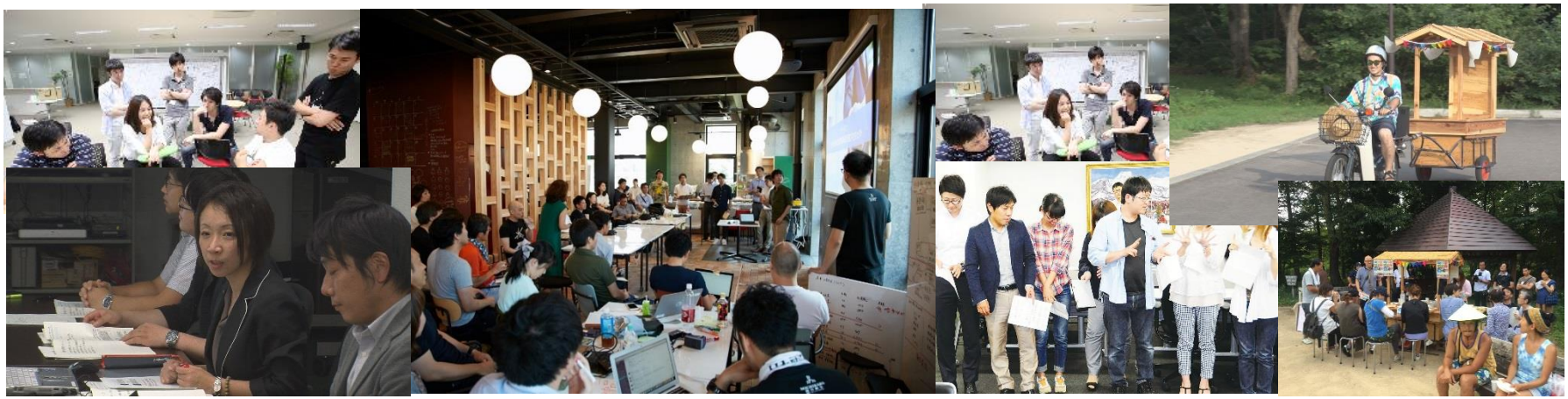
また、サイボウズ株式会社にて、ブランディングやチームワークメソッドの研究開発を行う複業家でもある。「パラレルワーク」や「テレワーク」など、これからの仕事のあり方や働き方を実践している。

地域課題解決型研修プラットフォーム（みょうこうミライ会議）

- 妙高市の市民や地元企業、農家、若手起業家などで組織し、ローカルイノベーションの創出を目指して平成28年度より取り組んでいる**「妙高わかもの会議」を発展的に改組**し、異業種交流や人が創り出す「共創力・協働力・革新力」をさらに発揮し、社会・地域に求められ、社会課題を解決する力を持った人材を育成するため、令和2年度より、首都圏企業様等に提供する「地域課題解決型研修」と組み合わせることを想定設計した新たなプラットフォームとして、**「みょうこうミライ会議」を創設。**
- このプログラムには、さらに、首都圏等の企業から研修として派遣されたリーダー候補の社員様などと妙高市の市民会議メンバー＆行政職員（妙高市役所）が異業種でチームを編成。
- 2泊3日の短期集中型の合宿などを通して地域の課題に取り組み、具体的ソリューションを市長に提言します。
- 現実の課題に対し、実行可能なソリューションを短期で提示することを課せられるため、**本質課題を見抜き、実現できる施策を作る「変革リーダーに必要な力」を育成します。**

「みょうこうミライ会議」のコンセプトデザイン

【みょうこうミライ会議】
「アツい人たち」が出会い化学反応を起こすと きっと未来が変わる

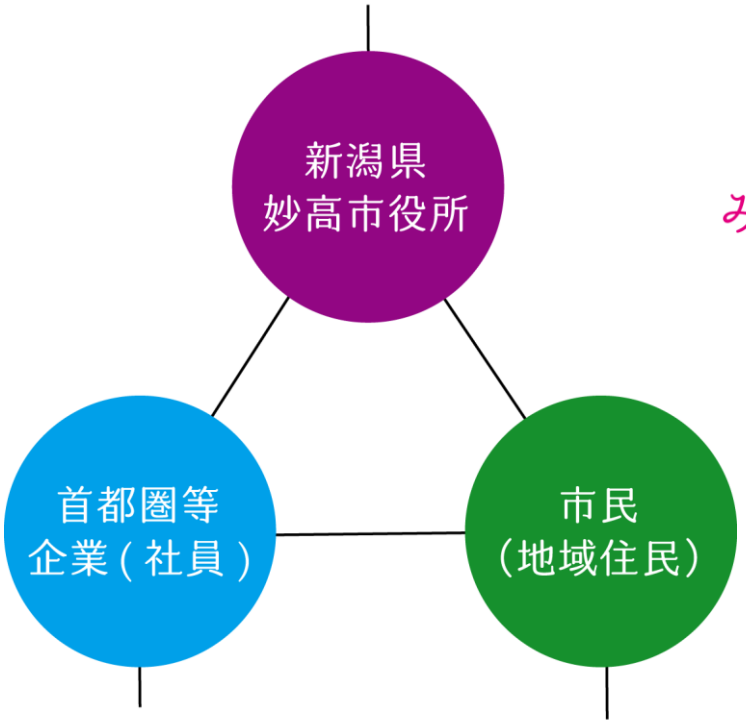


- 「みょうこうミライ会議」は、妙高市民（市民、農家、若手起業家等）と自治体職員、首都圏企業のプロフェッショナル人材が協働してイノベーションを起こすためのプラットフォーム。
- 目指すのは、参加職員・社員が「最適なコンディションで協働できる」コミュニティ。
- 参加者の熱量がぶつかり合うことで互いの人的変革を起こし、地方創生は勿論のこと事業開発・人材開発など多様な面でのイノベーションに連鎖させます。
- 新図書館構想、観光地再生、交通弱者対策、空き家対策、子育て女性の仕事創出などの行政課題解決策を提言することなどを想定し、市長プレゼンなどを通じ、参加社員の課題解決スキルの育成とともに、評価されたプロジェクトが妙高市の翌年予算編成に組込まれるなど社会実装（事業化）につなげます。

「みょうこうミライ会議」のプロフェッショナルな構築体制

【みょうこうミライ会議】

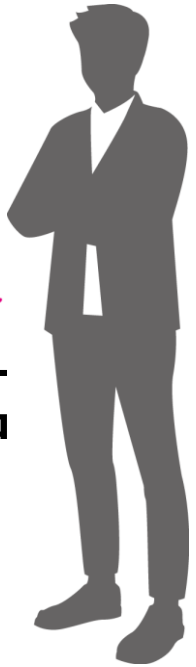
地方行政発で未来を変える



自らが日本の未来を変える

みょうこうミライ会議総合プロデューサー

総務省地域力創造アドバイザー
の活用を検討中



- 企業の人事（社員）、市民（市民・農家・起業家等）、地方自治体職員、そして両者をつなぐプロデューサーとしての「変革のプロ」「イノベーションファシリテーションのプロ」である総務省地域力創造アドバイザーのトータルコーディネートを検討しており、「枠組みを超えた具体的な変化を生む」形での企画・運営・事業展開を実現できること。また自組織のみの利益だけでなく、世の中全体への貢献を見据え、本構想を持って日本の地域課題に対してイノベーティブな変化の波を起こします。

「テレワーク研修交流施設」を観光地周辺に整備予定

- コワーキングスペース、シェアオフィス、コミュニティスペース等を備えた**「テレワーク研修交流施設」を妙高市（行政）が整備予定**
- 観光客の多い市内有数の観光地付近に整備予定

妙高市池の平地区「いもり池」

施設内イメージ（現：妙高高原観光案内所）

妙高クアオルトプログラム（健康保養地）

■ クアオルト（健康保養地）プログラム（春～秋）

★「健康資源」を活用した「妙高型健康保養地プログラム」の確立

気候療法 ウォーキング ＋ **温泉プールでの水中運動** ＝ **妙高型 健康保養地プログラム**

気圧が低く、運動強度が上がる準高地でのウォーキング

温泉の効能に加え、水中運動と組み合わせて実施することで効果アップ

★指導体制・受入体制の整備

●妙高ヘルスケアリーダー(指導者)の養成と育成(登録１９人)

●DMOや民間事業者が主体となったヘルスツーリズムの受入体制の構築

第２期ヘルスツーリズム認証の取得

★拠点施設の整備・活用

●妙高高原体育館　温泉トレーニングプール

直径18.6m・水深1.1mの専用プールを完備し、通年で温泉療法プログラムの実施が可能

トレイルランニング試走プログラム

■ トレイルランニング試走プログラム（春～秋）

●トレイルランニングレースとしての国内では、憧れのブランド大会となった「信越五岳トレイルランニングレース（110km・100miles(160km)」や、「MADARAO FOREST TRAILs 50km」などのコースをプロトレイルランナーや現地スタッフとともに、「試走」する持久系スポーツのワーケーションプログラムを提供

その他の多様な各種プログラム例

その他の自然体験系プログラムの例

森林ツーリズム・森林ヨガプログラム

マインドフルネスプログラム

温泉ソムリエ解説・温泉満喫プログラム

山岳登山・トレッキングプログラム

農業体験プログラム

スノーシュープログラム

豪雪・除雪体験（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）プログラム

スキー・スノボ・バックカントリープログラム

and More!

妙高でのワーケーションのメリット

■ **「妙高」の良好な環境でワークライフバランス。心身ともに健やかに・豊かに**

仕事と、家族と過ごす時間・趣味の時間の両立

長期滞在するための宿泊施設が充実。家族と一緒に過ごす時間や趣味に没頭できる時間は、人生の質の高さ、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）に強い影響を与えます。

リフレッシュ効果による生産性向上

森林セラピーロードなどリフレッシュ効果の高いエリアが豊富。豊富で多様なアクティビティが充実し、息抜きができるバケーションスポットで自由に過ごせます。そのためストレス解消やリフレッシュ効果が高く、仕事のモチベーション上昇や生産性の向上が期待できます。

企業とワーカー(社員)のエンゲージメント向上

研修＋自然体験によるチームビルディングプログラムや社会課題解決のためのプラットフォームや研修人材・研修フィールドが充実。社員の心身の健康や福利厚生に配慮する企業という信頼が社員に芽生え、企業との間に強い絆が結ばれます。また現時点でワーケーションを実施している企業は多くなく、このスタイルに慣れた社員の強いリテンション効果（優秀な人材のつなぎとめる策）が見込めます。

「妙高市」は、より長い休暇やレジャーを業務や生産性に影響を与えずに取得できるなど、様々なメリットがある「ワーケーション」（研修・自然体験等）を通じて、生産性・ワークライフバランスを高める働き方を、企業様に「具体的に提案・提供」していきます。

妙高市がワーケーションで企業様等に提供できる価値

- **企業様と社員様のメリットを最大化しつつ、地域振興等に寄与することを目指します。**

企業様メリット

- 企業研修などを通じた人材の育成
- 多様な教育研修（社会奉仕、農業体験等）
- 優秀な人材獲得・離職防止(ﾘﾃﾝｼｮﾝ)効果
- 福利厚生・働き方のバリエーション増加
- ＣＳＲの取組み寄与（ＳＤＧｓなど）
- 生産性向上・事業継続性向上
- 社員様の心身の健康増進
- 企業と社員とのエンゲージメント向上等

社員様メリット

- 通勤時間の短縮（Ex.120分→5分）
- ワーケーションの実現（Work+Vacation）
- 生産性向上（会議の効率化）
- ワーク・ライフ・バランスの実現
- 人脈の形成（地域交流・異業種交流）等

Myoko-Workation-Style
ワーケーションは、「新潟県妙高市」へ。

社員様の満足度を高め、生産性と企業価値を最大化します

妙高市（地域）のメリット

- 新たな人の流れの形成（企業等）
- 地域経済の活性化、観光振興
- 副業人材の活用による市内企業の高度化
- リモートワークによる雇用の創出
- 関係人口の増による担い手への寄与等

心身共に健康で、それぞれの社員様・家族にマッチしたＱＯＬの向上を実現します